

いわき市スポーツ推進計画に係る調査結果（概要版）

1. いわき市の将来都市像

（1）上位関連計画の整理

第2期スポーツ推進基本計画（平成29年度～令和3年度）

- 基本方針：スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life
- 施策内容：
 1. スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実
 2. スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現
 3. 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備
 4. クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上

福島県スポーツ推進基本計画（平成25年度～令和2年度）

- 基本理念：県民の誰もが、豊かなスポーツライフを創造できる「生涯スポーツ社会の実現」
～県全体をスポーツ空間として捉え、すべての県民が地域や自然の中で様々なスポーツ文化を享受している。～
- 基本目標：県民が、生涯にわたって自主的・自律的かつ継続的にスポーツに親しみながら、人と地域が輝く『ふくしま』を創る。
- 施策内容：
 1. スポーツ推進体制の整備
 2. 指導者の養成・確保・活用
 3. スポーツムーブメントの展開
 4. スポーツ交流の推進
 5. スポーツ施設の整備・活用
 6. スポーツの情報提供
 7. 企業・大学と地域スポーツの好循環
 8. 東日本大震災・原子力災害に伴う対応

新・いわき市総合計画改定後期基本計画（平成28年度～令和2年度）

- めざしていく「いわき」の姿：
 1. 循環を基調とした、持続可能なまち
 2. 誰もが安全に、安心して暮らせるまち
 3. 活力に満ち、創造力あふれるまち
- 計画の体系：
 - 復興 震災前にも増して
 1. 美しい環境を守り、育てあう
 2. 心をつなぎ、支えあう
 3. 学びあい、高めあう
 4. 魅力を育み、磨きあう
 5. 活気を生み、力を伸ばしあう
 6. 交わり、連携を強めあう

健康いわき21（第二次）改定版（平成26年度～令和5年度）

- めざす姿：心身ともに健康で、いきがいを持って生活ができる
- 具体化のための手法：
 1. ライフステージに応じた健康づくりの重視
 2. 健康づくり支援のための地域連携の強化

（2）いわき市スポーツ推進計画に求められる役割の整理

計 画	スポーツ推進計画に期待される役割
第2期スポーツ推進基本計画	・国民やスポーツ団体等のスポーツ活動を支援するため、第2期計画を参酌してできる限りすみやかに地方スポーツ推進計画を改定・策定し、地域の特性や現場のニーズに応じたスポーツの施策を主体的に実施するとともに、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに関係部局・団体が一体となって取り組むことを期待する。
福島県スポーツ推進基本計画	・県民や地域に最も身近な自治体であることから、地域住民のスポーツ活動の場となる公共施設の整備や利活用、地域のスポーツ団体・スポーツボランティア等との連携強化や組織化の促進、スポーツを活かした地域活性化への取組強化、他の市町村等とのスポーツ交流の推進など、各市町村の実情に応じた的確かつ柔軟なスポーツ環境の整備が期待されます。
新・いわき市総合計画後期基本計画	・総合型地域スポーツクラブを増やし、地域体育祭等、身近で気軽に参加できる機会を増やす。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとしたスポーツや廃炉研究、防災学習等を目的とした合宿の場として選ばれるような環境、体制を整備する。
健康いわき21（第二次）改定版	・誰もが気軽にスポーツを楽しみながら、体力づくりや健康づくりを行える環境整備のため、スポーツ教室の開催や総合型地域スポーツクラブの育成支援などを行う。 ・市民全般を対象とした介護予防意識の醸成と、地域ぐるみで誰もが気軽に介護予防活動に参加できる施策の展開。

2. いわき市の地域特性

(1) いわき市の人口等の状況

■総人口の推移

- ・世代別人口は、令和元年度には年少人口（15歳未満）が38,227人、生産年齢人口（15～64歳）が190,055人、老年人口（65歳以上）が105,215人となっている。
- ・世代別人口割合の推移をみると老年人口が増加傾向にあり、令和元年度には人口の約3割を占めている。また、年少人口と生産年齢人口は減少傾向がみられる。

■将来人口の推移

- ・いわき市人口ビジョンにおいて設定された将来人口推計について、2060年（R42）には153,875人と、2010年（H22）と比較して55.0%減少すると予測している。
- ・また、2060年の世代別人口の割合は年少人口が8.4%、生産年齢人口が41.5%、老年人口が50.1%と予測しており、年少人口及び生産年齢人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加することが想定される。

■人口分布

- ・平成27年の人口分布状況は、各鉄道駅の周辺に集積しており、特にいわき駅や内郷駅、泉駅の周辺が多くなっている。
- ・また、平地区や小名浜地区にも人口が集積しているほか、市全域に50人以上の集落が点在している。

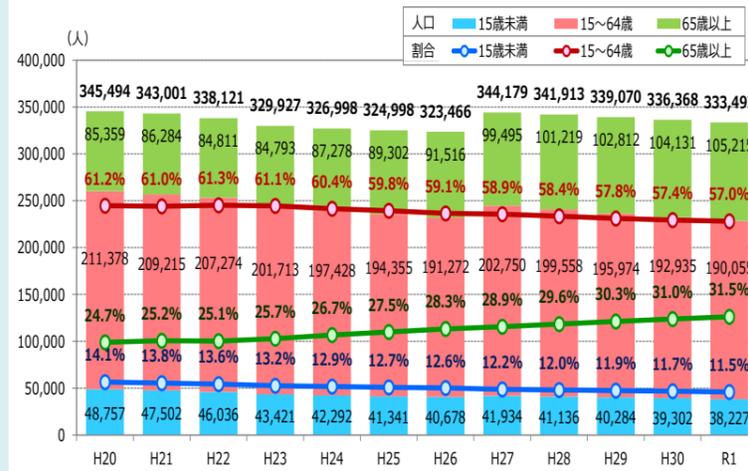
■スポーツ施設の立地状況

- ・主要なスポーツ施設が60施設あり、広範囲に点在している。種類の施設立地状況は下図のとおり。
- ・規模の大きいスポーツ施設は市の中心部である平地区周辺に集中して立地している。

■大会・合宿等の受入環境の実態（宿泊施設の立地状況）

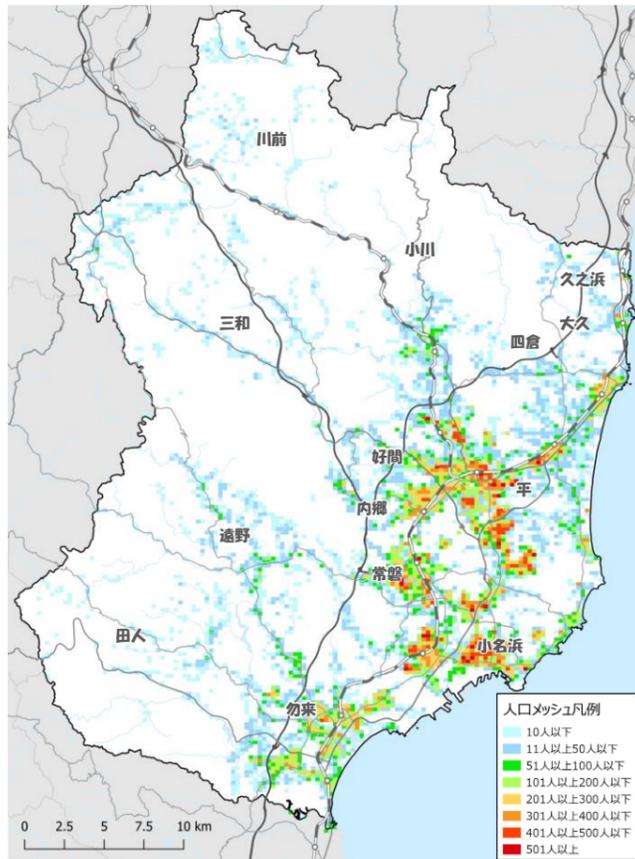
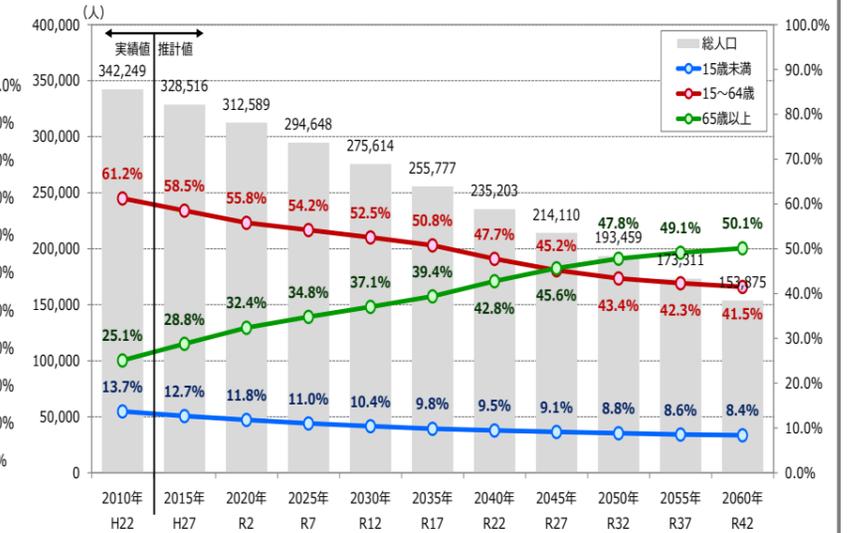
- ・ビジネスホテルを含め、宿泊施設は93施設あり、平地区、常磐地区、小名浜地区に多く立地している。
- ・また、収容人数が100人を超える宿泊施設は21施設あり、常磐地区に多く立地している。

＜いわき市における総人口の推移＞

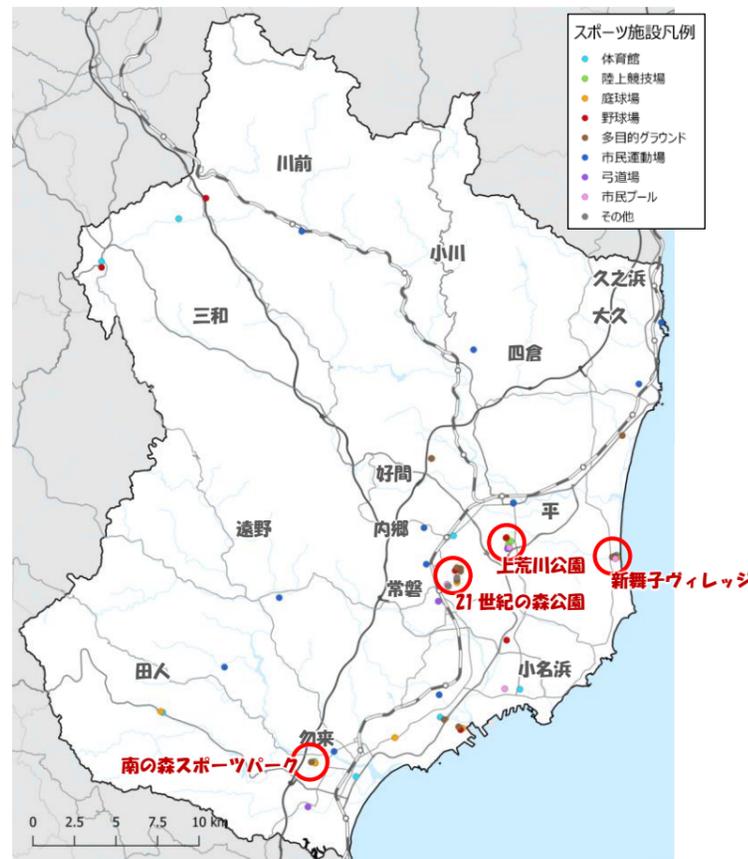


資料：福島県HP、いわき市人口ビジョン

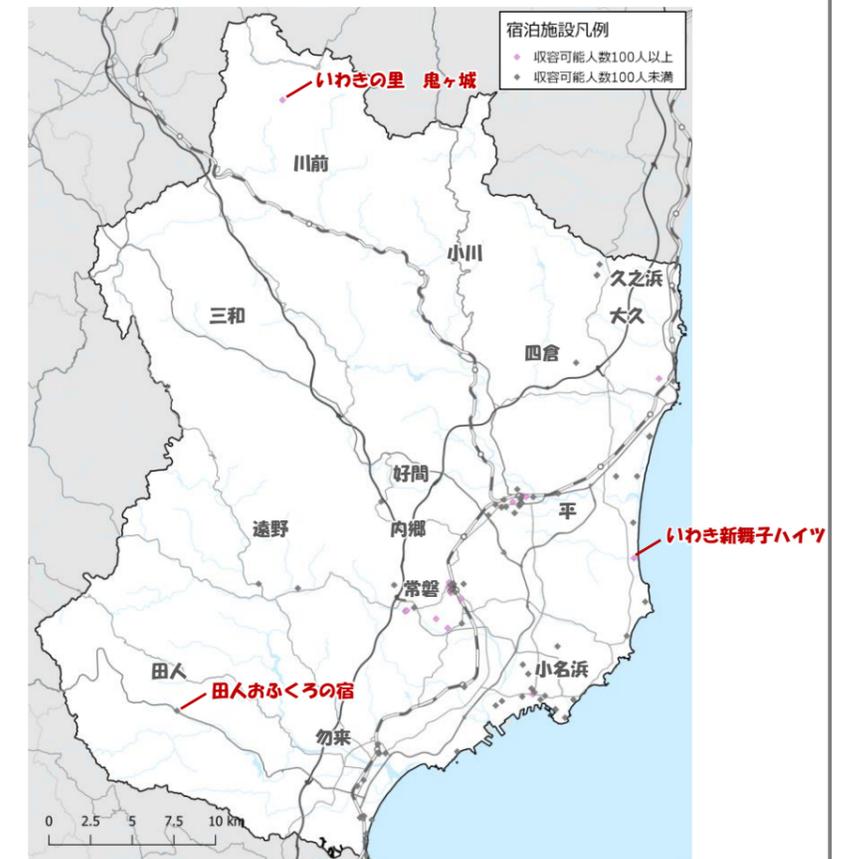
＜いわき市における将来人口の推移＞



＜人口の分布状況（H27 250mメッシュ）＞



＜スポーツ施設の分布状況＞



＜宿泊施設の分布状況＞

(2) プロスポーツチームの活動状況

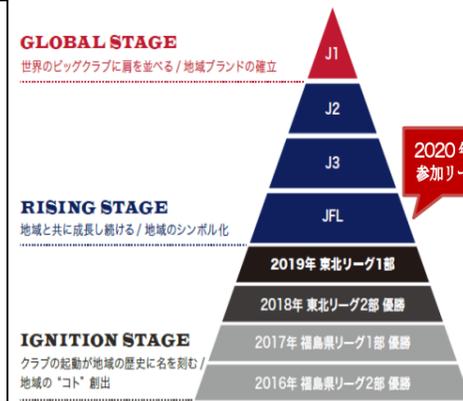
■ プロスポーツ活動状況

- 本市には、サッカーのプロチーム「いわきFC」があり、プロスポーツを観戦する環境が整っている。
- 「いわきFC」は、「いわきスポーツクラブ」が運営するプロスポーツチームで、「スポーツを通じて社会を豊かにする」という理念のもと2015年12月に発足した。競技としてのスポーツに留まらずスポーツの成長産業化や人材育成などに積極的に取り組んでいる。
- 2019年度には「全国地域サッカーチャンピオンリーグ2019」で優勝を果たし、2020年度からJFLへ昇格しており、2021年度のJ3リーグへの昇格を目指している。

< 主な実施事業 >

プロスポーツチーム	実施事業
いわきFC	<ul style="list-style-type: none"> リーグへの参加（JFL） ホームゲームの開催 チームグッズの販売 ファンクラブの運営 いわきスポーツアスレチックアカデミー（ISAA）の運営 商業施設複合型クラブハウス・いわきFCパークの整備 いわきFCステーションの整備 いわきFCクリニックの整備 ランニングクリニックの開催 サーキットトレーニング・ヨガの開催 各種イベントの開催

< ステージの考え方 >



< 地域と連携した取り組み >

取り組み	概要
稼げるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> オンリーワンのスポーツ×メディカルツーリズムモデルの構築 スタジアムを中心としたまちづくりに向けた事業可能性調査の実施
人材育成・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> スポーツによるヘルスケアモデルの構築 スポーツを通じた人材育成
地域ブランディング	<ul style="list-style-type: none"> ホームチームの機運醸成 いわきFCと連携したシティセールスの推進
スマートライフ	<ul style="list-style-type: none"> スポーツによるスマートライフ推進

< 取り組み状況 >



(3) スポーツ大会開催・合宿誘致の実態

■ 競技別イベント開催数及び主に使用する施設

- 競技別にみると、サッカーや野球、テニスといった屋外競技をはじめ、バレーボールやバスケットボール、卓球、バドミントンといった屋内競技など、多く大会やイベントが開催されている。
- 平成27年の月別のイベント開催状況をみると、野球やバスケットボール、バレーボール、テニス、卓球、武道等の種目について、大会やイベントが毎月開催されており、競技人口の多さや各種目の需要の高さがうかがえる。

< 競技別イベント開催月 > (H27)

開催月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
サッカー												
野球												
ラグビー												
陸上競技												
マラソン												
バスケットボール												
バレーボール												
テニス												
バドミントン												
卓球												
サイクリング												
ハンドボール												
ウェイトリフティング												
ウォーキング												
新体操												
ゴルフ												
武道												
その他												

< 主に使用される施設別イベント開催月 > (H27)

開催月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
21世紀の森公園 いわきグリーンフィールド												
21世紀の森公園 いわきグリーンスタジアム												
上荒川公園 いわき陸上競技場												
南の森スポーツパーク 南部アリーナ												
小名浜武道館												
平テニスコート												
上荒川公園 総合体育館												
内郷コミュニティセンター												
夏井川河川敷 ターゲット・バードゴルフ場												

■ オリンピック・パラリンピック競技大会等、その他スポーツを取り巻く動向

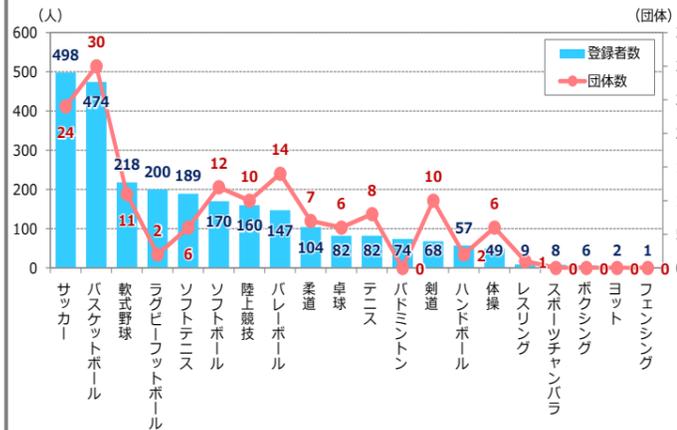
- 令和3年度の実施に延期が決定された、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、野球及びソフトボールの開幕戦を福島県福島市にある「福島あづま球場」で行うことが決定された。県内での競技開催の機運を活かしながら、平成29年10月に設立された「いわき市スポーツコミッション」と連携しつつ、トップアスリートの養成やトップチームの合宿誘致などを積極的に展開し、スポーツを軸とした地域の活性化につなげていくところである。

(4) 市民のスポーツ活動の現状

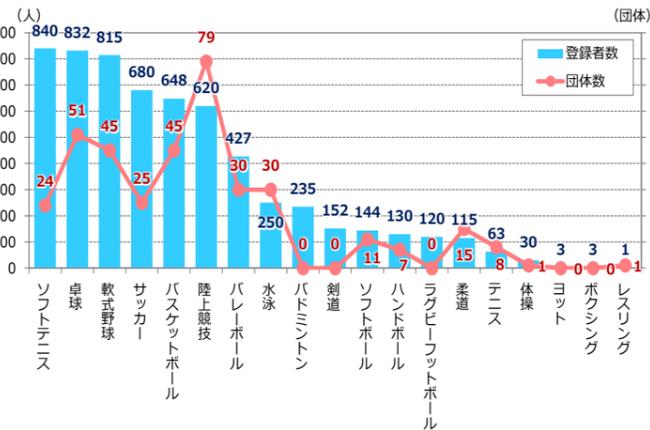
■小・中学生のスポーツ活動（部活動等）

- 本市に存在しているスポーツ少年団の競技別団体数は、バスケットボールやサッカーが多く、登録者数も400名以上となっているほか、軟式野球やソフトボール、陸上競技、バレーボール、剣道が10団体以上となっている。
- 競技別中学校の運動部活動数は、陸上競技部が多くなっているほか、ソフトテニスや卓球、軟式野球は登録者数が800名以上となっている。

＜ 競技別スポーツ少年団の活動状況（令和2年度） ＞



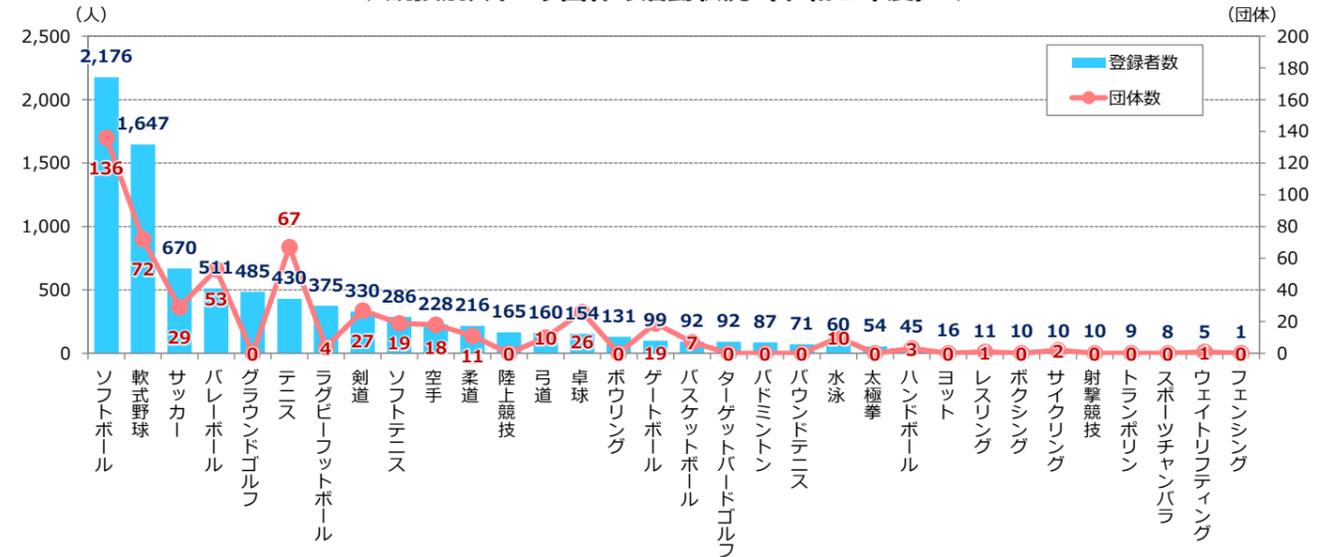
＜ 競技別中学校の部活動状況（令和2年度） ＞



■成人におけるスポーツ活動状況

- 本市に存在している一般参加が可能なスポーツ団体数は、ソフトボールや軟式野球、テニスが多くなっている。

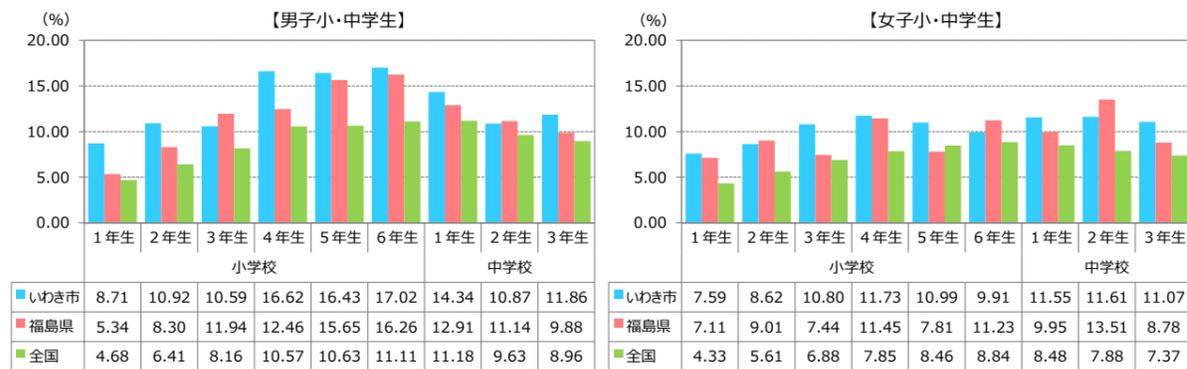
＜ 競技別スポーツ団体の活動状況（令和2年度） ＞



■小・中学生の体格、体力・運動能力

- 小中学生の肥満傾向児割合は、男子女子ともにすべての学年で全国肥満者割合を上回っているほか、ほぼすべての学年で福島県肥満者割合も上回っている。
- また、「新体力テスト」の結果によると、本市の小中学生の体力は、全国平均値以下で推移している。

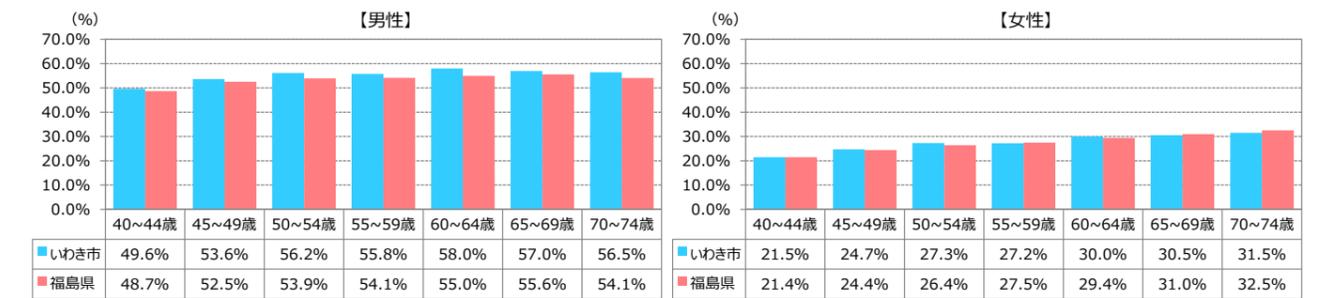
＜ 小中学生の学年別肥満割合（令和元年度） ＞



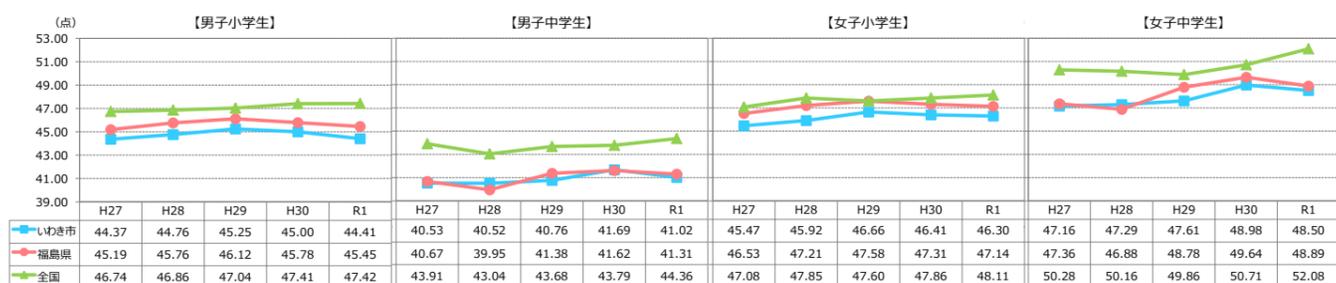
■成人の肥満状況

- 国民健康保険特定健康診断結果における肥満者割合は、男性はすべての年代で、女性は55～59歳と65歳以上以外の年代で福島県肥満割合を上回っている。推移をみると、本市の肥満割合は、福島県肥満割合以上で推移しているが、経年的には微減の傾向にある。

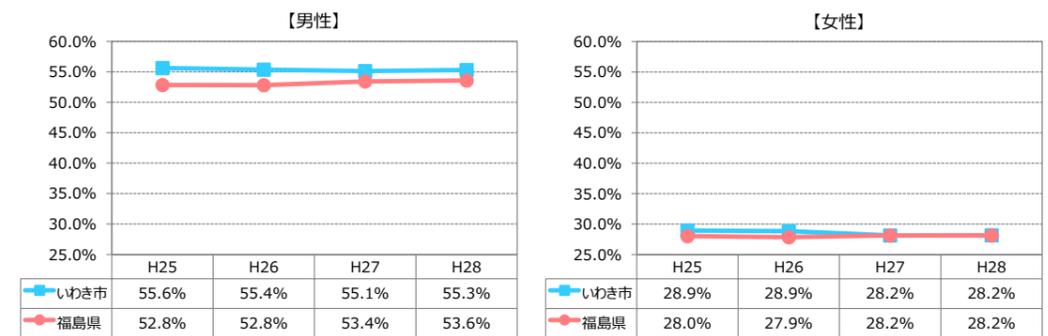
＜ 特定健康診断の結果における年齢別肥満者割合（平成28年度） ＞



＜ 小中学生の新体力テストの総合得点平均値 ＞



＜ 特定健康診断の結果における肥満者割合の推移 ＞

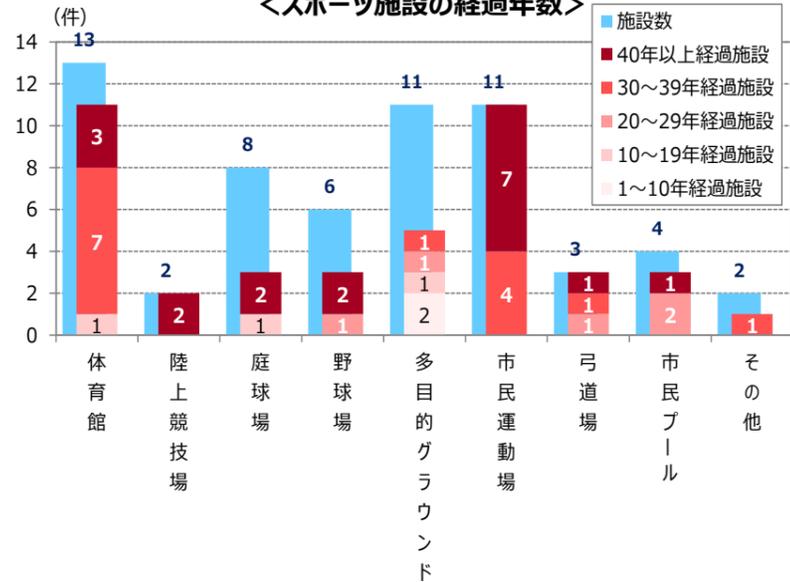


(5) スポーツ施設の状況

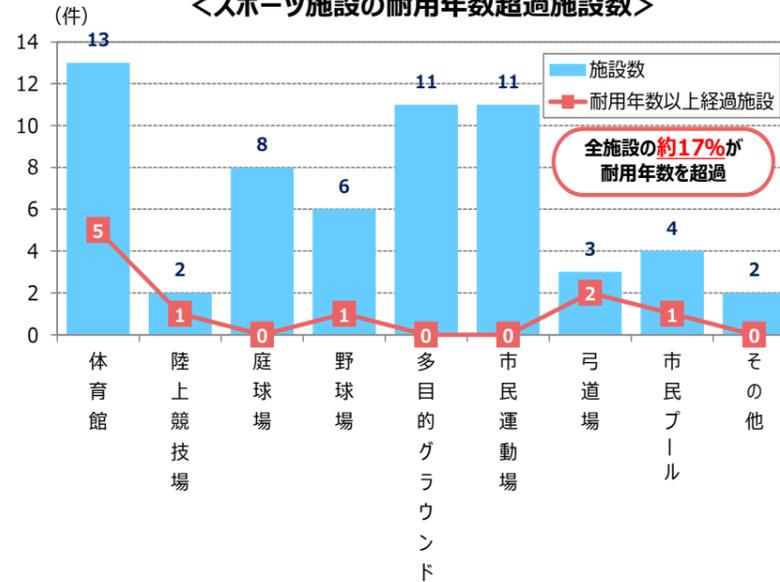
■スポーツ施設の耐用性・安全性

- ・市内の主要なスポーツ施設（60施設）のうち多くの施設が30年以上稼働している。また、約17%が耐用年数を超過したまま使用されている。
- ・平成9年度に、昭和56年以前に整備された施設を対象に耐震属性調査を実施しており、整備が必要と診断された施設について、耐震化工事を行っているが、一部完了していない施設が存在している。

＜スポーツ施設の経過年数＞



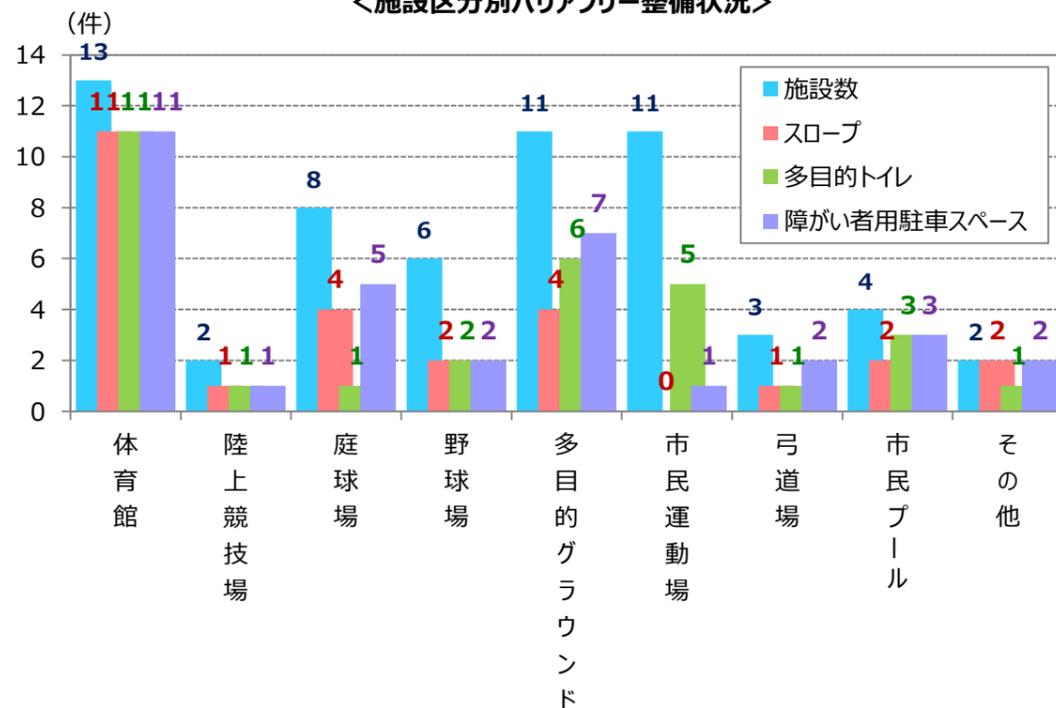
＜スポーツ施設の耐用年数超過施設数＞



■スポーツ施設の高齢者・障がい者に配慮した施設整備

- ・市内の主要なスポーツ施設（60施設）の整備状況は、スロープがある施設が45.0%、多目的トイレがある施設が51.7%、障がい者用駐車場がある施設が56.7%となっている。
- ・バリアフリー及びユニバーサルデザインが全く整備されていない施設は、約3割となっている。

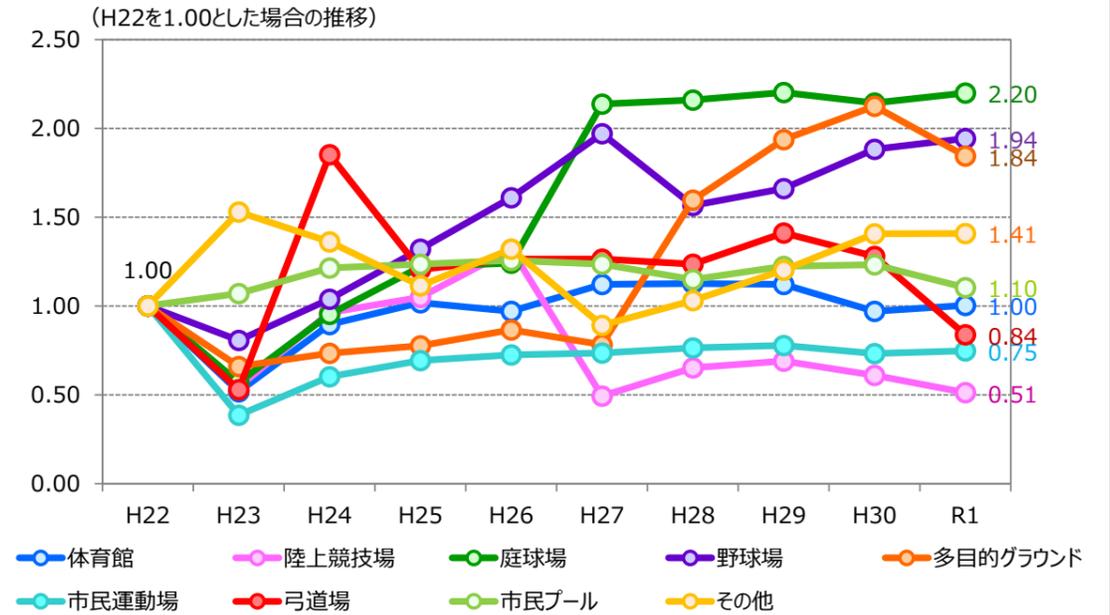
＜施設区分別バリアフリー整備状況＞



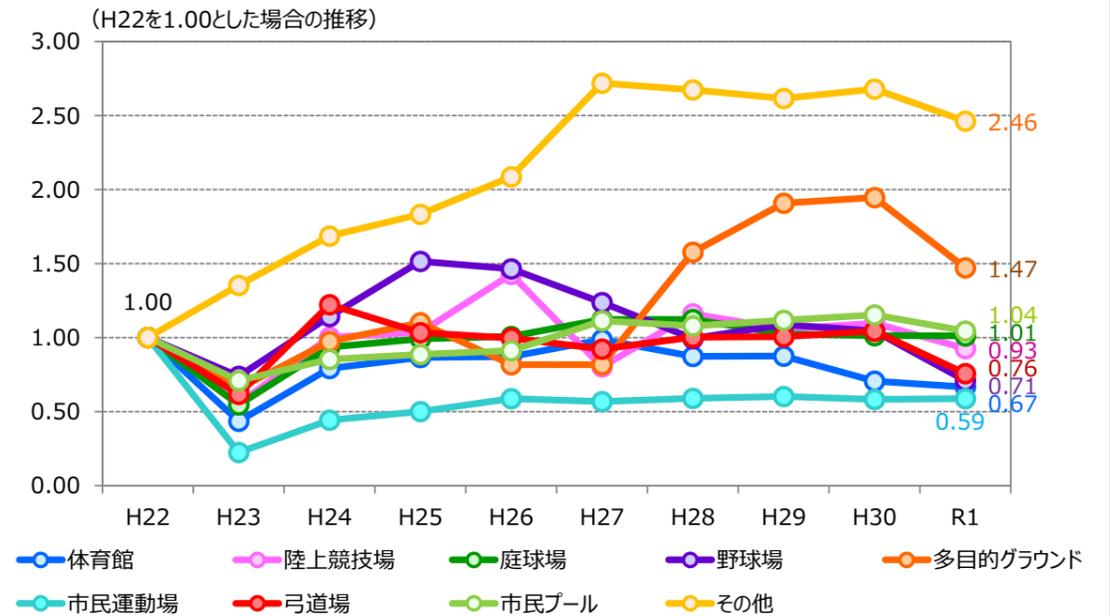
■スポーツ施設の利用実態・需要

- ・市内の主要なスポーツ施設の利用件数と利用者数は、東日本大震災の影響で平成23年に激減したが、平成24年以降には増加傾向がみられる。それ以降、ほぼすべての施設で利用件数は増加傾向にあり、利用者数は横ばいの傾向となっている。
- ・全体の傾向としては、東日本大震災以前（平成22年）と令和元年を比較すると、利用件数は1割以上の増加傾向があり、利用者数は1割以上の減少傾向にある。

＜施設別利用件数の推移＞



＜施設別利用者数の推移＞



3. スポーツの実施状況等に関するアンケートの概要について

(1) 調査の実施概要

項目	内容
調査目的	・国の第2期スポーツ基本計画の基本方針『スポーツを「する」「みる」「ささえる』に基づく実態を把握するため、調査を実施した。
調査方法	・郵送配布、郵送回収
調査対象	・3,000人 市内在住の18歳以上の市民 ※住民基本台帳から無作為抽出による個人宛に配布した。
回答数	・886件（回答率29.5%）
調査項目	① 調査対象者の属性（性別、年齢、住まい など） ② スポーツ実施状況、満足度 ③ スポーツ観戦状況 ④ ボランティア活動状況 ⑤ いわきFC関連（観戦経験、FCパークの来場経験、チームに対する意識）
調査時期	令和元年（2019年）12月12日（木）～令和2年（2020年）1月24日（金）

(2) 調査結果の概要

① 回答者の属性

<回収状況>

	回答数	送付件数	回答率
男性	408件	1,462件	27.91%
女性	472件	1,538件	30.69%
不明	6件	—	—
合計	886件	3,000件	29.53%

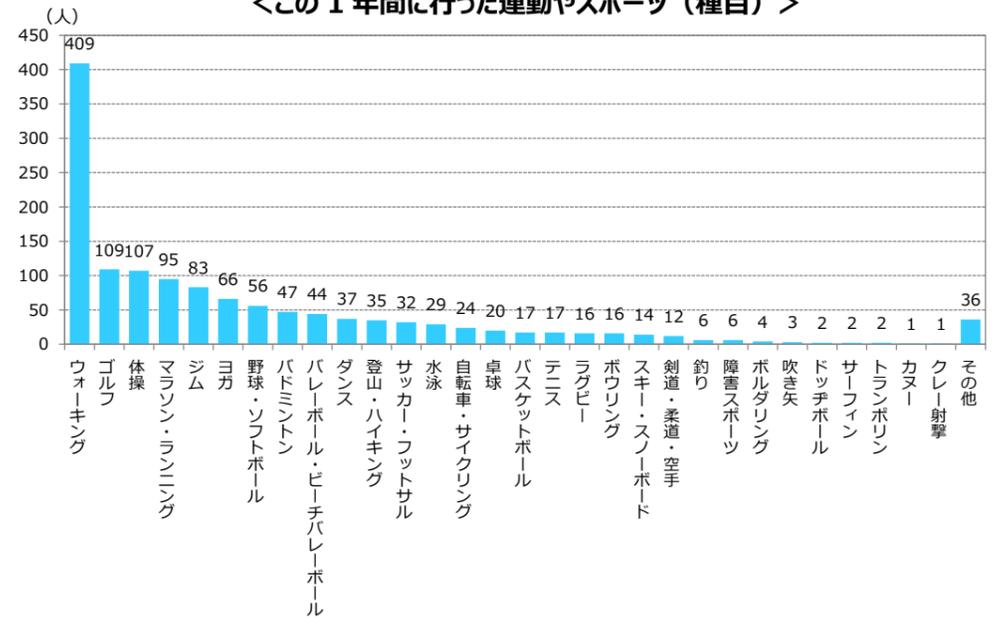
	回答数	送付件数	回答率
18～29歳	70件	376件	18.62%
30～39歳	98件	369件	26.56%
40～49歳	150件	478件	31.38%
50～65歳	265件	735件	36.05%
66～79歳	232件	705件	32.91%
80歳以上	69件	337件	20.47%
不明	2件	—	—
合計	886件	3,000件	29.53%

② スポーツを「する関連」

■この1年間に行った運動やスポーツ（種目）を、すべてご記入ください。（複数回答）

- ・実施したスポーツ活動としては、回答の多い順に「ウォーキング」が最も高く46.2%、次いで「ゴルフ」が12.3%、「体操」12.1%となっている。
- ・年代別に見ると、全ての世代で「ウォーキング」を実施している割合が高い。18歳～49歳まではマラソン・ランニングの割合も高く、66歳以上は「体操」の割合が高くなっている。

<この1年間に行った運動やスポーツ（種目）>



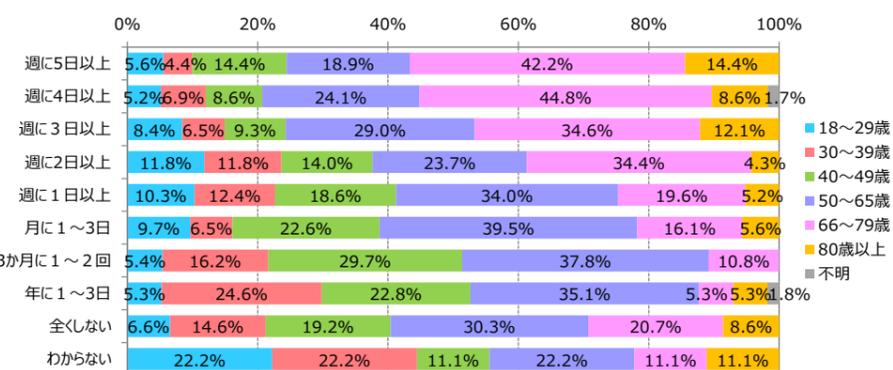
年代	回答者数	ウォーキング	ゴルフ	体操	マラソン・ランニング	ジム	ヨガ	野球・ソフトボール	バドミントン	バレーボール・ビーチバレーボール	ダンス	登山・ハイキング	サッカー・フットサル	水泳	自転車・サイクリング	卓球	バスケットボール
18～29歳	70	22	4	1	19	10	5	9	14	11	3	1	12	6	1	5	10
	100.0%	31.4%	5.7%	1.4%	27.1%	14.3%	7.1%	12.9%	20.0%	15.7%	4.3%	1.4%	17.1%	8.6%	1.4%	7.1%	14.3%
30～39歳	98	36	9	4	23	11	14	6	8	7	2	3	4	5	4	2	1
	100.0%	36.7%	9.2%	4.1%	23.5%	11.2%	14.3%	6.1%	8.2%	7.1%	2.0%	3.1%	4.1%	5.1%	4.1%	2.0%	1.0%
40～49歳	150	61	16	8	28	14	17	14	6	13	7	0	12	9	12	5	1
	100.0%	40.7%	10.7%	5.3%	18.7%	9.3%	11.3%	9.3%	4.0%	8.7%	4.7%	0.0%	8.0%	6.0%	8.0%	3.3%	0.7%
50～65歳	265	123	37	32	17	24	16	18	12	11	11	15	2	7	4	1	4
	100.0%	46.4%	14.0%	12.1%	6.4%	9.1%	6.0%	6.8%	4.5%	4.2%	4.2%	5.7%	0.8%	2.6%	1.5%	0.4%	1.5%
66～79歳	232	136	31	48	8	22	12	5	7	1	14	13	1	2	2	7	0
	100.0%	58.6%	13.4%	20.7%	3.4%	9.5%	5.2%	2.2%	3.0%	0.4%	6.0%	5.6%	0.4%	0.9%	0.9%	3.0%	0.0%
80歳以上	69	31	12	13	0	2	2	4	0	1	0	3	1	0	1	0	1
	100.0%	44.9%	17.4%	18.8%	0.0%	2.9%	2.9%	5.8%	0.0%	1.4%	0.0%	4.3%	1.4%	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%
不明	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	886	409	109	107	95	83	66	56	47	44	37	35	32	29	24	20	17
	100.0%	46.2%	12.3%	12.1%	10.7%	9.4%	7.4%	6.3%	5.3%	5.0%	4.2%	4.0%	3.6%	3.3%	2.7%	2.3%	1.9%

年代	回答者数	テニス	ラグビー	ボウリング	スキー・スノーボード	剣道・柔道・空手	釣り	障害スポーツ	ポルタリング	吹き矢	ドッチボール	サーフィン	トランポリン	カヌー	クレー射撃	その他	合計
18～29歳	70	5	1	1	4	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	9	157
	100.0%	7.1%	1.4%	1.4%	5.7%	1.4%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	12.9%	224.3%
30～39歳	98	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	2	0	0	8	156
	100.0%	1.0%	0.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	8.2%	159.2%
40～49歳	150	3	3	3	1	1	1	2	1	0	1	1	0	0	0	10	250
	100.0%	2.0%	2.0%	2.0%	0.7%	0.7%	0.7%	1.3%	0.7%	0.0%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	166.7%
50～65歳	265	1	5	8	4	2	1	0	0	1	1	1	0	0	0	6	364
	100.0%	0.4%	1.9%	3.0%	1.5%	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	137.4%
66～79歳	232	7	5	3	4	6	2	2	0	1	0	0	0	0	1	2	342
	100.0%	3.0%	2.2%	1.3%	1.7%	2.6%	0.9%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.9%	147.4%
80歳以上	69	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	77
	100.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	1.4%	1.4%	1.4%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	111.6%
不明	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	886	17	16	16	14	12	6	6	4	3	2	2	2	1	1	36	1,348
	100.0%	1.9%	1.8%	1.8%	1.6%	1.4%	0.7%	0.7%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	4.1%	152.1%

■運動・スポーツをする頻度について伺います。

- 週に1日以上スポーツ実施率については、50.2%となっており、前回調査時（平成22年度）の39.2%から、10ポイント程度増加している。国のスポーツ基本計画の目標値（65%程度）には及んでいない状況となっている。
- 年齢別にみると、全ての世代で「全くしない」の割合が高い。しかし、66歳以上から「週に3日以上」「週に5日以上」の割合も高く、スポーツを実施する頻度が増えている。66歳未満は「月に1～3回」や「年に1～3回」の割合が高く、頻度は少ない。

＜運動・スポーツをする頻度＞



年代	回答者数	週5日以上	週4日以上	週3日以上	週2日以上	週1日以上	月に1～3回	3か月に1～2回	年に1～3回	全くしない	わからない	無回答	合計
18～29歳	70	5	3	9	11	10	12	2	3	13	2	0	70
30～39歳	98	4	4	7	11	12	8	6	14	29	2	1	98
40～49歳	150	13	5	10	13	18	28	11	13	38	1	0	150
50～65歳	265	17	14	31	22	33	49	14	20	60	2	3	265
66～79歳	232	38	26	37	32	19	20	4	3	41	1	11	232
80歳以上	69	13	5	13	4	5	7	0	3	17	1	1	69
不明	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	886	90	58	107	93	97	124	37	57	198	9	16	886

■運動やスポーツを実施したのはどのような理由からですか。（3つまで回答可）

- スポーツを実施した理由については、「健康のため」の51.6%を最多に、「運動不足解消のため」の39.2%、「体力増進・維持のため」の36.3%、「楽しみ、気晴らしとして」の25.8%となっている。
- 年代別に見ると、全ての世代で「健康のため」を理由に挙げている。18歳～65歳及び80歳以上は「運動不足解消のため」の割合も高く、66～79歳は「体力増進・維持のため」の割合が高くなっている。

＜運動やスポーツを実施した理由＞

年代	回答者数	健康のため	体力増進・維持のため	美容のため	運動不足解消のため	自己の記録や能力を向上させるため	家族とのふれあいのため	友人等との交流のため	楽しみ、気晴らしとして	わからない	その他	無回答	合計
18～29歳	70	27	19	14	29	6	3	16	23	2	8	8	155
30～39歳	98	40	29	13	37	6	14	7	25	3	4	21	199
40～49歳	150	61	47	5	52	7	19	21	41	5	9	30	297
50～65歳	265	147	92	8	99	17	9	42	73	9	8	48	552
66～79歳	232	143	111	1	99	9	8	45	60	1	7	41	525
80歳以上	69	37	24	0	30	1	1	13	7	1	4	14	132
不明	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
合計	886	457	322	41	347	47	54	144	229	21	40	162	1,864

■週に1日以上スポーツを実施できなかった理由について伺います。（3つまで回答可）

- 週に1日以上スポーツを実施できなかった理由について最も多かった理由は「仕事や家事が忙しかったから」の32.4%で、次いで「生活や仕事で体を動かしているから」の12.6%、「年を取ったから」の11.7%となっている。
- 年代別に見ると、18歳～65歳までは「仕事や家事が忙しかったから」の割合が最も高い。66歳以上は「年を取ったから」の割合が最も高い。

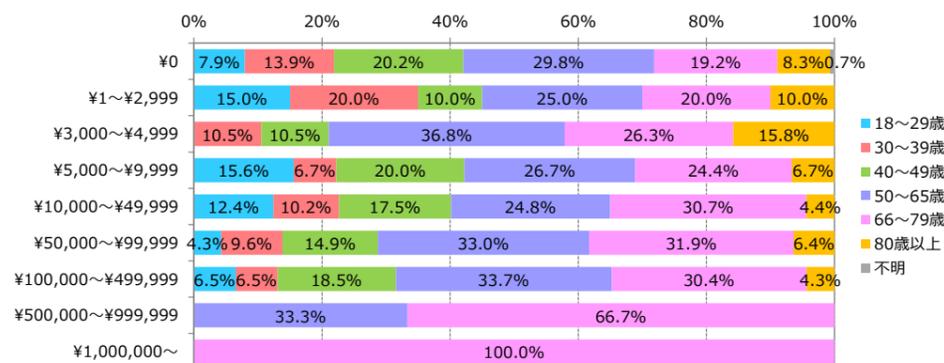
＜週に1日以上スポーツを実施できなかった理由＞

年代	回答者数	仕事や家事が忙しかったから	指導者がいないから	場所や施設がないから	子どもに手がかるから	お金に余裕がないから	年を取ったから	病気がけがをしているから	運動・スポーツが嫌いだから	面倒だから	それ以上に大切なことがあるから	生活や仕事で体を動かしているから	仲間がいないから	わからない	その他	無回答	合計
18～29歳	70	27	0	13	4	4	0	0	3	8	5	10	11	0	3	30	118
30～39歳	98	53	1	14	28	18	1	3	4	14	1	9	3	1	5	31	186
40～49歳	150	69	1	15	20	22	13	9	8	28	2	16	1	8	50	263	
50～65歳	265	104	2	20	4	33	30	25	7	25	11	42	12	3	7	108	433
66～79歳	232	29	7	13	1	9	39	22	6	15	7	27	5	4	6	136	326
80歳以上	69	3	0	2	0	2	21	11	3	3	1	6	0	3	4	36	95
不明	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	5
合計	886	287	11	77	57	88	104	70	31	93	28	112	32	12	33	391	1,426

■ご自身が行う運動・スポーツのために1年間にどの程度、費用をかけていますか。（飲料・サプリメント代等は含みません）

- 費用について最も多かった金額は「0円」の34.1%で、次いで「1万円以上5万円未満」の15.5%となっている。
- 年代別にみても、全体と同じ傾向が見られる。「1万円以上5万円未満」では66～79歳の割合が30%以上を占めている。

＜1年間で運動・スポーツをするためにかけている費用＞



年代	回答者数	¥0	¥1～¥2,999	¥3,000～¥4,999	¥5,000～¥9,999	¥10,000～¥49,999	¥50,000～¥99,999	¥100,000～¥499,999	¥500,000～¥999,999	¥1,000,000～	無回答	合計
18～29歳	70	24	3	0	7	17	4	6	0	0	9	70
30～39歳	98	42	4	2	3	14	9	6	0	0	18	98
40～49歳	150	61	2	2	9	24	14	17	0	0	21	150
50～65歳	265	90	5	7	12	34	31	31	1	0	54	265
66～79歳	232	58	4	5	11	42	30	28	2	1	51	232
80歳以上	69	25	2	3	3	6	6	4	0	0	20	69
不明	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	886	302	20	19	45	137	94	92	3	1	173	886

③スポーツを「みる関連」

■この1年間にどんなスポーツを観戦しましたか。当てはまるものすべてをあげてください。

- ・「マラソン・駅伝」や「高校野球」、「ラグビー」がそれぞれ50%を超え多くなっている。「ラグビー」については、ラグビーワールドカップ 2019TM日本大会や、その大会に出場したサモア独立国ラグビーナショナルチームが本市で事前キャンプを実施したことにより関心が高まったことによるものだと考えられる。
- ・年代別にみると、18～29歳は「高校野球」、30～65歳は「ラグビー」、66～79歳は「マラソン・駅伝」、80歳以上は「大相撲」の割合が高くなっている。

＜1年間に観戦したスポーツ＞

年代	回答者数	プロ野球(MLB含む)	高校野球	サッカー(Jリーグなど)	サッカー(いわきFC)	テニス	マラソン・駅伝	ゴルフ	ラグビー(トップリーグ・大学・高校・海外)
18～29歳	70	22	36	18	5	11	24	5	30
	100.0%	31.4%	51.4%	25.7%	7.1%	15.7%	34.3%	7.1%	42.9%
30～39歳	98	33	40	39	6	19	32	20	43
	100.0%	33.7%	40.8%	39.8%	6.1%	19.4%	32.7%	20.4%	43.9%
40～49歳	150	65	72	55	20	31	69	40	84
	100.0%	43.3%	48.0%	36.7%	13.3%	20.7%	46.0%	26.7%	56.0%
50～65歳	265	108	141	118	26	87	160	96	167
	100.0%	40.8%	53.2%	44.5%	9.8%	32.8%	60.4%	36.2%	63.0%
66～79歳	232	119	148	84	24	70	158	92	111
	100.0%	51.3%	63.8%	36.2%	10.3%	30.2%	68.1%	39.7%	47.8%
80歳以上	69	30	37	20	10	14	39	20	19
	100.0%	43.5%	53.6%	29.0%	14.5%	20.3%	56.5%	29.0%	27.5%
不明	2	2	1	1	0	0	2	0	1
	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%
合計	886	379	475	335	91	232	484	273	455
	590.7%	42.8%	53.6%	37.8%	10.3%	26.2%	54.6%	30.8%	51.4%

年代	回答者数	大相撲	バスケットボール(NBA・Bリーグ含む)	バドミントン	体操・新体操	バレーボール(Vリーグ・日本代表含む)	全くみていない	その他	無回答	合計
18～29歳	70	9	9	15	0	28	11	14	2	239
	100.0%	12.9%	12.9%	21.4%	0.0%	40.0%	15.7%	20.0%	2.9%	341.4%
30～39歳	98	25	12	11	5	32	11	15	5	348
	100.0%	25.5%	12.2%	11.2%	5.1%	32.7%	11.2%	15.3%	5.1%	355.1%
40～49歳	150	31	21	18	12	46	12	27	5	608
	100.0%	20.7%	14.0%	12.0%	8.0%	30.7%	8.0%	18.0%	3.3%	405.3%
50～65歳	265	91	34	76	32	79	8	53	16	1,292
	100.0%	34.3%	12.8%	28.7%	12.1%	29.8%	3.0%	20.0%	6.0%	487.5%
66～79歳	232	133	29	75	45	67	9	32	29	1,225
	100.0%	57.3%	12.5%	32.3%	19.4%	28.9%	3.9%	13.8%	12.5%	528.0%
80歳以上	69	41	5	16	12	16	2	9	11	301
	100.0%	59.4%	7.2%	23.2%	17.4%	23.2%	2.9%	13.0%	15.9%	436.2%
不明	2	2	0	0	0	1	0	0	0	10
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	500.0%
合計	886	332	110	211	106	269	53	150	68	4,023
	590.7%	37.5%	12.4%	23.8%	12.0%	30.4%	6.0%	16.9%	7.7%	454.1%

■スポーツを観戦した理由を3つまであげてください。(3つまで回答可)

- ・「そのスポーツが好きだから」が61.2%と最も多く、次いで「暇つぶしのため(なんとなく)」が27.9%、「応援しているチームだから」と「応援している選手がいるから」がそれぞれ15%を超えている。
- ・年代別に見ても同じ傾向が見られる。

＜スポーツを観戦した理由＞

年代	回答者数	そのスポーツが好きだから	ストレス発散のため	暇つぶしのため(なんとなく)	そのスポーツを行っているから	友人や家族に誘われたから	チケットがあったから	応援しているチームだから	応援している選手がいるから	家族・友人が出場しているから	その他	無回答	合計
18～29歳	70	41	0	23	10	6	0	8	8	0	2	14	112
	100.0%	58.6%	0.0%	32.9%	14.3%	8.6%	0.0%	11.4%	11.4%	0.0%	2.9%	20.0%	160.0%
30～39歳	98	50	3	30	10	10	0	11	11	5	9	15	154
	100.0%	51.0%	3.1%	30.6%	10.2%	10.2%	0.0%	11.2%	11.2%	5.1%	9.2%	15.3%	157.1%
40～49歳	150	85	5	52	22	16	3	26	22	8	12	18	269
	100.0%	56.7%	3.3%	34.7%	14.7%	10.7%	2.0%	17.3%	14.7%	5.3%	8.0%	12.0%	179.3%
50～65歳	265	179	14	67	34	16	4	46	52	8	12	26	458
	100.0%	67.5%	5.3%	25.3%	12.8%	6.0%	1.5%	17.4%	19.6%	3.0%	4.5%	9.8%	172.8%
66～79歳	232	150	16	55	29	12	0	38	47	4	9	39	399
	100.0%	64.7%	6.9%	23.7%	12.5%	5.2%	0.0%	16.4%	20.3%	1.7%	3.9%	16.8%	172.0%
80歳以上	69	36	6	19	7	2	2	13	12	2	2	15	116
	100.0%	52.2%	8.7%	27.5%	10.1%	2.9%	2.9%	18.8%	17.4%	2.9%	2.9%	21.7%	168.1%
不明	2	1	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	6
	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	300.0%
合計	886	542	45	247	112	62	9	143	154	27	46	127	1,514
	590.7%	61.2%	5.1%	27.9%	12.6%	7.0%	1.0%	16.1%	17.4%	3.0%	5.2%	14.3%	170.9%

■直接スポーツを観戦するために1年間にどの程度費用をかけていますか。

- ・費用について最も多かった金額は「0円」の50.7%で、次いで「1万円以上5万円以下」の7.3%、となっている。
- ・年代別にみても、全体と同じ傾向が見られる。

＜1年間でスポーツを観戦するためにかけている費用＞

年代	回答者数	¥0	¥1～¥2,999	¥3,000～¥4,999	¥5,000～¥9,999	¥10,000～¥49,999	¥50,000～¥99,999	¥100,000～¥499,999	無回答	合計
18～29歳	70	46	0	1	1	3	1	0	18	70
	100.0%	65.7%	0.0%	1.4%	1.4%	4.3%	1.4%	0.0%	25.7%	100.0%
30～39歳	98	69	3	1	0	4	1	1	19	98
	100.0%	70.4%	3.1%	1.0%	0.0%	4.1%	1.0%	1.0%	19.4%	100.0%
40～49歳	150	90	1	0	2	17	2	4	34	150
	100.0%	60.0%	0.7%	0.0%	1.3%	11.3%	1.3%	2.7%	22.7%	100.0%
50～65歳	265	125	5	4	7	25	6	5	88	265
	100.0%	47.2%	1.9%	1.5%	2.6%	9.4%	2.3%	1.9%	33.2%	100.0%
66～79歳	232	94	4	2	4	14	1	2	111	232
	100.0%	40.5%	1.7%	0.9%	1.7%	6.0%	0.4%	0.9%	47.8%	100.0%
80歳以上	69	24	1	0	2	2	0	0	40	69
	100.0%	34.8%	1.4%	0.0%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	58.0%	100.0%
不明	2	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	886	449	14	8	16	65	11	12	311	886
	100.0%	50.7%	1.6%	0.9%	1.8%	7.3%	1.2%	1.4%	35.1%	100.0%

④スポーツを「支える関連」

■直接スポーツを支える側（ボランティア等）で活動したことがありますか。

- ・60%を超える方が、「支える側で活動したことがない」となっている。
- ・年代別に見ると、全体と同じ傾向が見られるが、66歳～79歳で「スポーツボランティアとして活動した」が7.8%を占めている。80歳以上では「スポーツ団体などの運営に携わった」が7.2%を占めている。

＜直接スポーツを支える側（ボランティア等）の活動の有無＞

年代	回答者数	スポーツボランティアとして活動した	スポーツ団体などの運営に携わった	指導者として活動した	支える側で活動したことがない	無回答	合計
18～29歳	70	2	1	5	55	7	70
	100.0%	2.9%	1.4%	7.1%	78.6%	10.0%	100.0%
30～39歳	98	3	2	2	80	11	98
	100.0%	3.1%	2.0%	2.0%	81.6%	11.2%	100.0%
40～49歳	150	8	7	7	116	12	150
	100.0%	5.3%	4.7%	4.7%	77.3%	8.0%	100.0%
50～65歳	265	11	16	11	190	37	265
	100.0%	4.2%	6.0%	4.2%	71.7%	14.0%	100.0%
66～79歳	232	18	9	8	132	65	232
	100.0%	7.8%	3.9%	3.4%	56.9%	28.0%	100.0%
80歳以上	69	2	5	1	30	31	69
	100.0%	2.9%	7.2%	1.4%	43.5%	44.9%	100.0%
不明	2	0	0	0	2	0	2
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計	886	44	40	34	605	163	886
	100.0%	5.0%	4.5%	3.8%	68.3%	18.4%	100.0%

■支える側の活動はどのようなきっかけで行いましたか

- ・「好きなスポーツの普及・支援」や「家族・友人が参加しているから」が5%を超える割合となった。
- ・年代別にみると、18～29歳及び66～79歳は「好きなスポーツの普及・支援」、30～39歳は「社会貢献」、40～65歳は「家族・友人が参加しているから」、80歳以上は「出会い・交流の場」の割合が最も高い。

＜スポーツを支える活動のきっかけ＞

年代	回答者数	好きなスポーツの普及・支援	大会運営スキルの習得・活用	出会い・交流の場	地域での居場所、役割	社会貢献	家族・友人が参加しているから	わからない	その他	無回答	合計
18～29歳	70	3	1	1	3	0	2	3	4	59	76
	100.0%	4.3%	1.4%	1.4%	4.3%	0.0%	2.9%	4.3%	5.7%	84.3%	108.6%
30～39歳	98	4	1	0	2	5	0	5	4	84	105
	100.0%	4.1%	1.0%	0.0%	2.0%	5.1%	0.0%	5.1%	4.1%	85.7%	107.1%
40～49歳	150	8	1	1	3	3	10	4	6	124	160
	100.0%	5.3%	0.7%	0.7%	2.0%	2.0%	6.7%	2.7%	4.0%	82.7%	106.7%
50～65歳	265	15	0	8	9	6	23	13	4	210	288
	100.0%	5.7%	0.0%	3.0%	3.4%	2.3%	8.7%	4.9%	1.5%	79.2%	108.7%
66～79歳	232	17	3	16	6	14	12	12	5	180	265
	100.0%	7.3%	1.3%	6.9%	2.6%	6.0%	5.2%	5.2%	2.2%	77.6%	114.2%
80歳以上	69	5	4	7	2	1	0	3	2	54	78
	100.0%	7.2%	5.8%	10.1%	2.9%	1.4%	0.0%	4.3%	2.9%	78.3%	113.0%
不明	2	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	150.0%
合計	886	52	10	33	26	29	47	41	25	712	975
	100.0%	5.9%	1.1%	3.7%	2.9%	3.3%	5.3%	4.6%	2.8%	80.4%	110.0%

⑤その他

■スポーツの普及・振興に関して特に市に望むものは何ですか。（複数回答）

- ・スポーツの普及・振興に関して特に市に望むものについて最も多かったものは「施設・設備の充実」が45.7%、次いで「幼少期の子供たちへの運動指導」が28.3%、「スポーツ教室の開催」が19.6%となっている。
- ・年代別・頻度別にみても、全体と同じ傾向が見られる。

＜スポーツの普及・振興に関して特に市に望むもの＞

年代	回答者数	施設・設備の充実	幼少期の子供たちへの運動指導	スポーツ教室の開催	全国大会などへ出場した際の補助金の充実	有名な選手・指導者を招いた講演会等の開催	わからない	その他	無回答	合計
18～29歳	70	37	18	8	6	10	10	6	4	99
	100.0%	52.9%	25.7%	11.4%	8.6%	14.3%	14.3%	8.6%	5.7%	141.4%
30～39歳	98	58	42	23	17	14	6	8	5	173
	100.0%	59.2%	42.9%	23.5%	17.3%	14.3%	6.1%	8.2%	5.1%	176.5%
40～49歳	150	75	51	31	21	23	18	11	6	236
	100.0%	50.0%	34.0%	20.7%	14.0%	15.3%	12.0%	7.3%	4.0%	157.3%
50～65歳	265	120	68	53	49	26	36	14	28	394
	100.0%	45.3%	25.7%	20.0%	18.5%	9.8%	13.6%	5.3%	10.6%	148.7%
66～79歳	232	94	62	54	36	21	30	8	50	355
	100.0%	40.5%	26.7%	23.3%	15.5%	9.1%	12.9%	3.4%	21.6%	153.0%
80歳以上	69	19	9	5	4	6	18	3	19	83
	100.0%	27.5%	13.0%	7.2%	5.8%	8.7%	26.1%	4.3%	27.5%	120.3%
不明	2	2	1	0	0	0	0	0	0	3
	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	150.0%
合計	886	405	251	174	133	100	118	50	112	1,343
	100.0%	45.7%	28.3%	19.6%	15.0%	11.3%	13.3%	5.6%	12.6%	151.6%

＜運動・スポーツ実施頻度別、普及・振興に関して特に市に望むもの＞

頻度	回答者数	施設・設備の充実	幼少期の子供たちへの運動指導	スポーツ教室の開催	全国大会などへ出場した際の補助金の充実	有名な選手・指導者を招いた講演会等の開催	わからない	その他	無回答	合計
週に5日以上	90	39	22	19	11	8	9	9	16	133
	100.0%	43.3%	24.4%	21.1%	12.2%	8.9%	10.0%	10.0%	17.8%	147.8%
週に4日以上	58	34	19	14	10	5	4	2	7	95
	100.0%	58.6%	32.8%	24.1%	17.2%	8.6%	6.9%	3.4%	12.1%	163.8%
週に3日以上	107	50	31	17	17	13	13	5	17	163
	100.0%	46.7%	29.0%	15.9%	15.9%	12.1%	12.1%	4.7%	15.9%	152.3%
週に2日以上	93	50	25	18	15	13	12	6	10	149
	100.0%	53.8%	26.9%	19.4%	16.1%	14.0%	12.9%	6.5%	10.8%	160.2%
週に1日以上	97	42	29	23	15	14	11	9	11	154
	100.0%	43.3%	29.9%	23.7%	15.5%	14.4%	11.3%	9.3%	11.3%	158.8%
月に1～3日	124	62	33	28	17	20	12	7	9	188
	100.0%	50.0%	26.6%	22.6%	13.7%	16.1%	9.7%	5.6%	7.3%	151.6%
3か月に1～2回	37	19	16	12	11	5	4	2	1	70
	100.0%	51.4%	43.2%	32.4%	29.7%	13.5%	10.8%	5.4%	2.7%	189.2%
年に1～3日	57	27	19	11	10	4	7	4	3	85
	100.0%	47.4%	33.3%	19.3%	17.5%	7.0%	12.3%	7.0%	5.3%	149.1%
全くしない	198	72	52	31	25	18	39	5	32	274
	100.0%	36.4%	26.3%	15.7%	12.6%	9.1%	19.7%	2.5%	16.2%	138.4%
わからない	9	3	1	1	0	0	4	1	1	11
	100.0%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	44.4%	11.1%	11.1%	122.2%
不明	16	7	4	0	2	0	3	0	5	21
	100.0%	43.8%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	18.8%	0.0%	31.3%	131.3%
合計	886	405	251	174	133	100	118	50	112	1,343
	100.0%	45.7%	28.3%	19.6%	15.0%	11.3%	13.3%	5.6%	12.6%	151.6%

4. 関係事業者ヒアリングの結果（概要）

（1）調査事業の実施概要

【調査目的】

- ・委員を対象に、スポーツに関する問題・課題を把握するため調査した。

【主な調査項目】

- ①ハード面の課題 ②ソフトウェアの課題 ③ヒューマンの課題 ④いわき FC の課題 ⑤スポーツツーリズムの課題 ⑥スポーツコミッションの課題 ⑦その他

（2）調査の結果（概要）について

ハード	施設整備について	施設管理について	その他
	<p>■ 廃校活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉校になった山間地の学校の体育施設利活用については、3月30日第2回検討委員会の際、委員長がまとめたように「そう簡単な話ではない」そのとおりだと思うが、多少負担があっても市民の財産を活用できないだろうか。ただ、山間地域において、そのような計画を望んでいるかどうか。現状は？と聞かれると？？？ですが。 <p>■ 周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設をあまり利用しない一般市民には分からないと思います。「この施設が、この様になりました」的なことを知ってもらうことはスポーツに興味を持ってもらう一環になるのではないのでしょうか。「お知らせ」は文字だけではなく、イラスト等を使って分かり易く「一度見て下さい！」的な語りかけにする。 <p>■ 整備内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての施設に冷暖房の設置（体育館、公民館） ・トイレの洋式化及びウォシュレット（温水洗浄便座）の設置 ・体育施設全般の老朽化に伴う新設、改修工事についての短期、長期的計画の必要性 ・温暖化への対応 ・新スポーツ種目への対応 ・すでに皆様でもご認識されている部分だとは思いますが、<u>老朽化している設備が目立つのが印象です。アンケートでもあるように健康のため運動をされる方が多くいるか</u>と思いますので、より市民が使いやすい施設とすることが、今後の課題かと思えます。また、スポーツだけでなく+a活用できる施設整備を、今後検討していければいいかなと思います。 ・<u>陸上競技場。メインスタンドのトイレの老朽化（観客席へ異臭がある）。</u> ・<u>上荒川公園の駐車場の拡張と周辺道路の整備。</u> ・<u>冷房完備の総合体育館があると、夏に大きな大会を誘致でき</u>と思う。 ・<u>施設数は十分とは言えないが新設する必要はない。競技人口に対して施設数や設備が十分でない場合は新設も考えられる。設備など老朽化などでの整備の場合は別として、過度に投資する必要はない。</u> ・<u>いわき市が広いので分散はしているものの十分に近いのでは</u>と思います。 ・<u>子供がスポーツを行う施設の数や整備としては、十分である</u>と思う。さらに学校も含めれば大人も運動できると思うが、学校での先生の対応（カギ 	<p>■ 管理状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年体育館等の施設を利用させて頂いていますが、そこそ管理されているとは思いますが。それと体育館の従事者の方が昔から比べると大分良くなったと思います。（対応の仕方等）施設の方が親切だったり、丁寧な対応をしてくれると「また来たい！」と思うのでは？ ・場所によっては愛想が悪い場所もあります。 <p>■ 修繕、整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破損箇所補修を速やかに行う ・施設周辺の駐車場の確保 ・<u>いわき市営陸上競技場周辺のトリムコースの整備（コースの路面状況や看板表示等）が必要か。</u> <p>■ 管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>管理者、利用者の双方の考えを互いに理解し合って使用していく姿勢が必要。利用者側の意見をアンケート調査実施し、より良い施設運営に役立てる。市内の体育施設指定管理者としての管理運営に関する統一したマニュアルがあるかどうか？</u> ・<u>ここ何年か夏季大会による熱中症が多発している。昔はいわき市大会は季候が涼しく、大会運営がやりやすい地区であったが、現在は、冷房がないと難しいのが現状である。複数施設の冷房設置が必要である。</u> <p>■ 付加価値、効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>サンマリーナの施設は今どうなっているのですか？何か活用できないか。</u> ・<u>スポーツ×イベントの観点で、少々使いづらいというのが印象です。スポーツを行うことだけが施設管理の目的ではないと勝手ながら思うので、地域のコミュニティを作るためにも、イベントをしやすい環境や地域と連携した施設管理を行うほか、より市民が使用しやすい施設管理を行うことがまだできてないかなという印象を感じています。</u> ・<u>利用者申し込みなどの事務的管理やフィールドや設備などの管理のみではなく、稼働率を上げる取組み（例；施設主催や市内他施設、市内外の団体などとの連携によるイベント～教室など開催）を考えるべき。行政のみの体制ではなく、民間の考え（稼働率と収益の考え）を取り入れる必要がある。</u> ・<u>公共施設に関しては、新たな施設整備よりも既存施設の維持管理、リフォームや運営体制の再検討など、民間活用を含めて行う必要がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川運動公園を見ても、駐車場のスペースが今の倍ぐらい欲しいところ。他の運動施設を見ても同様である。これからの施設には<u>広い駐車場が必要なのは皆さんも同意見だとは思いますが。</u> ・<u>大きな施設整備も大事だと思いますが、付帯した機器等の設備も同じく大事だと思います。かなり前から意見として上げさせて頂いていますが、総合体育館の音響設備は長年そのままです。体育館建設時の物とお聞きしていますが、本当でしょうか？音響を使う種目は限られているかも知れませんが、エアロビクス等は不可欠なものです。単に音が出れば良い！ということではなく、ピッチコントロールが途中で変わってしまう等は問題です。このような小さな箇所も目を向けてもらうと有り難いです。</u> ・<u>施設内障がい者用歩道（黄色の）（視覚障害者誘導用ブロック）の補修</u> ・<u>近年、甚大な被害となるような自然災害が多発している現状を鑑み、単なるスポーツ施設ではなく、災害時の避難施設として宿泊、生活必需品の備蓄、地域コミュニティーとして施設を充実させていく必要性を感じる。</u> ・<u>総合体育館の冷暖房使用時について弾力的運用をするべきではないか。コロナ禍で通気性を確保しなければならぬ状況下、冷房使用は意味がない。にも拘わらず使用料通常の3倍を支払う事について市民は納得できない。</u> ・<u>いわき市は広いため、会場から会場への移動が大変である。例えば、総合体育館と南部アリーナの移動距離があり不便である。中間の常磐地区や小名浜地区に総合体育館があると大変便利である。</u> ・<u>アンケートには、「整備されている」よりも「整備が足りない」とする方が多くありますが、35%の方が利用されていない・わからないであり、スポーツ・イベントへの関心の問題の様な気がします。</u> ・<u>スポーツ施設（建物）に関する長寿命化計画がありますが、施設運営に欠かせない設備に関する更新計画が無い</u>ため、各施設内の設備は耐用年数を大幅に超過している状況が多いと思われる。このため、設備に関する更新計画を立て実行されることが、（設備機器に係る）利用者側からの苦情等を少なくするものと考えます。 ・<u>スポーツ施設に臨むこと：アンケートから「身近に利用できる施設の増設」とある。北部・南部にそれぞれ体育施設はあるが、21世紀公園に体育館等があると、さらに充実するのではないかと思う。</u> ・<u>クロスカントリー走路を新設したい。いわき市立総合体育館近辺、あるいは、21世紀の森公園もよいか。いわきの涼しい気候の中、合宿を組むチームもあるので、さらなる誘致の根拠となる。</u>

※いただいたご意見は、原文のまま記載しています。

ハード	施設整備について	施設管理について	その他
	<p>閉め等)の負担などを考えると開け閉めのシステムが簡素化できればさらに利用しやすくなると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設はそれぞれ素晴らしいと思います。但し、<u>気軽に利用しにくい</u>。利用するのに壁(規制)が高いような気がします。 昨年、総合体育館の改修工事が終了し空調設備などが整備され、協議会において選手・観客・役員とも良い環境でイベント等に参加することができるようになった。課題としては、<u>大規模大会に必要な駐車場、アクセス道路の渋滞、また、施設も老朽化(特に陸上競技場の空調整備、スタンドのバリアフリー化などがあげられ、これらの整備で、より充実した施設となり、大規模大会の誘致も可能になるのではないか。</u> いわき市立総合体育館周辺の駐車場がいっぱいになると、路上駐車が発生する。安全管理上の理由からも、<u>駐車場は増設あるいは整備をした方がよい</u>と思われる。 <p>■整備の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が進み人口が減少する中で、<u>新たな施設を整備するのではなく、既存施設(公園、学校及びスポーツ施設なども含め)を有効活用した整備を行うとともに、類似の機能施設の削減を図るべきである。</u>今後、市が実施する<u>新規施設の整備は極力制限すべきである。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 管理については、問題ないのではと思いますが、使用予約については、<u>現地に行って予約を行うのもどうか</u>と思います。ただ、ネット上の早いもの勝ちも色々あるかと思いますが、<u>空き状況がリアルタイムで見られると良い</u>と思います。 <u>合宿受け入れを特化するのであれば、予約システムの再構築が必要である。</u> 	

ソフトウェア	世代別のスポーツ活動について	障がい者のスポーツ活動について	スポーツ教室・イベントについて	スポーツ関連情報の発信手法について	その他
	<p>■活動の場</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ種目にもよりますが、ある程度の年代別があると良いと思います。指導の立場として「年齢に関係なく誰でも参加できますよう〜！」との言葉をよく使いますが、<u>はっきり言って無理がある</u>と思います。年齢だけでなく、個別の運動歴・体力も関係しますが、1箇所(一回で)誰もが同じ様に運動を楽しめるとするのは難しいと思います。世代間交流の良い点もありますが、<u>理想は年代別に参加活動ができる場があると良い</u>と思います。 自分の周りでは、それぞれの年代で各種スポーツ活動を行っていると思うが、<u>行っていない方が新たにそのコミュニティに参加するのが難しい</u>と感じる。そのコミュニティの敷居の低さなどが<u>分かりやすく発信できればさらに増える</u>と思う。 <p>■出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>山間部(地域)への出前、運動指導を行う(定期的に月2回位、幼少期、親子参加)</u> 	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 湯本のサンアビリーターのほかに、障がい者が活動できる(している)施設と、それを指導する方がいるかどうか教えて下さい。 経験、知識が無いのでわからないが、市内ではどのような活動がなされているのか情報が欲しい。健常者と一緒になって支え合っ活動ができるのが理想的です。 障がい者の方による陸上競技の県大会に審判として参加したことがあるが、各学校ともに熱心な指導や応援があり、交流を含めてとても良い機会だと感じた。 <p>■担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者のスポーツ活動に対しては、頻度は多くないものの、年に数回の形で関係してきました。関わる中で痛感していたことは、<u>指導者やスタッフの方に「どう接したら良いのか？」</u>分かっていないことが多いのです。そこで戸惑うことが多々ありました。<u>サポーターへのサポート(注意点やコツ等)があると手助けもしやすい</u>のではないかと。 	<p>■イベントのやり方</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体育館に行くぞ!ドキドキ」と構えなくても、<u>気軽に参加できる様なスポーツ教室やイベントがあると良い</u>と思います。 コロナ禍の中で、臨機応変に対応する意味で、<u>オンライン教室等はできないか?オンラインでも対応できる種目はある</u>と思います。これも手前の自由意見で申し訳ありませんが、<u>ヨガはオンラインでも大いに可能です。</u> スポーツ教室については、<u>コロナのおかげで?オンラインでも十分できると</u>思います。テレビやスクリーンがあれば実際に行う教室以上の情報が入ります。 イベントというか、イベントという各スポーツの大会を開いても良いのではないかと感じます。 商工会議所が事務局で、(株)いわきスポーツクラブも加盟している「<u>スポーツによる人・まちづくり推進協議会</u>」において、<u>毎年各種スポーツを体験できるイベントを開催している。</u> 場所を借りるのに規制が邪魔してる気が。営利目的はNG、音出しNGなどなど…もっ 	<p>■周知方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信手法については、現状詳細はわかりませんが、<u>各活動など別々に発信しているように</u>思われる。PRは、各施設、市支所や公民館などでのチラシ配布や掲載、HP掲載などのSNS活用が多いと思う。例えば、情報発信元は1箇所(⇒市直か委託)、集約元は数か所(⇒市内を数方面に分け、方面別主要市支所で集約)、発信方法は、定期的な発信、紙類、SNS、FMなどなど……のようなシステム・体制づくりが必要である。また、情報収集には、施設、公民館、実施団体などからの情報提供と支所の地域振興担当員や実施団体、その他地域の団体など多くの方との協力・連携体制が必要である。 <u>市内全域の保育所、幼稚園、小学校で個人に関連イベントの案内を手渡す。または、地域の回覧板で各家庭にパンフレットを配布する。</u> 1番は多くの市民の目に触れる「<u>広報いわき</u>」からの発信が信頼性も担保され、市民 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツと芸術の融合?はできないか。例えば、スポーツとその写真展・彫塑展・絵画展等。その講演会も含めて。

※いただいたご意見は、原文のまま記載しています。

ソフトウェア	世代別のスポーツ活動について	障がい者のスポーツ活動について	スポーツ教室・イベントについて	スポーツ関連情報の発信手法について	その他
	<p>■ イベント企画、教室、生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民アンケートにもあったように平日午前が高齢者、主婦。夕方からは子どもたち。夜は一般社会人。というような区分があると良いと思います。曜日、時間毎にスポーツ教室を設定し参加者を募り、高齢者の方の為に循環バスを出すなどの利便性を図る。特に午前中は施設の空きが目立つので有効活用すべき。 高齢者の方々が、身近な場所で、気軽に参加できる定期的な活動やイベントが必要である。 スポーツ少年団の人数が減少してきており、運動離れがみられる。年代が上がれば、さらにこの傾向が深刻になってきており、生涯スポーツとして活動することも少なくなっていると思われる。幼少期のスポーツ活動を増し、成功体験を多く得ることがスポーツ人口を増やす一つの方法と考える。また、小中高一般のスポーツイベントなど各競技団体に企画してもらい、活動を活性化することも一つの方法と考える。 <p>■ スポーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツを通じた人材育成を行っていくために、園児・小学生年代で幅広く運動をする環境を作れたらと考えています。そもそも「運動とは」、ということを教育の現場から統一した認識を持つ必要があるかと思えます。スポーツクラブが持つノウハウを行政と連携し、授業に折り込むなど、意図的に多くの教育者や子どもが触れる環境を作っていければと思います。 もっと若年層（ちびっこ）の利用を活発にして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピック種目等の勉強会が必要かもしれない。 ボランティアを集めるのが必須だと思います。 <p>■ 種目</p> <ul style="list-style-type: none"> レクリエーション的種目を取り入れる。 <p>■ 障がい者版生涯学習への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者に対する知識がない中あまり語ることはできないかと思いますが、スポーツを行うことによりどのような影響があるか、ということとは健常者と変わらないかと思えます。 できる範囲は様々かと思いますが、スポーツを行うことによる成長や健康につながることを、障がい者へも提供できればと思います。 施設整備の項目でも挙げたように、施設を生涯スポーツに対応できるようにすることが普及につながるのではないかと。 <p>■ 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> まず情報がわからない。SNS などももっと活用して情報を出すべき。 	<p>とやり方次第だと思う。規制もすぐわかる。でも、もっとゆるくしてあげてもいいと思う。</p> <p>■ 世代</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達向けの教室を増やす。（種目多くする） 小学生の参加は、保護者の協力が必要。“気軽さ”が一番である。 子供向けのスポーツ教室の開催や企業向けの教室も行っている。この活動が広く周知されれば参加者も多くなるし、子供の全国体力テストも向上すると考える。 <p>■ 仕掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、子どもと一般向けの教室をスポーツ振興課が開催しているが、傍から見ていて確かに教室開催による効果があると感じている。スポーツをやりたいけどどうしたらいいのか…潜在的なスポーツへの参加のきっかけを模索している方への仕掛けとして大切だと思います。イベントは色々行われているが、市主催のイベントが重なってしまう事があるので対象者が同様な場合は折り合わせをし、参加者の奪い合い的な事は避けたい。 アンケートでもスポーツに触れられるイベントを求める声がありますので、積極的に開催していければと思います。昨今のコロナの状況もありますので密にならないようにしながらも、スポーツに触れる環境を地域で作っていければと思います。 いわきサンシャインマラソンの効果で、市民ランナー等、走ることに興味を持つ市民が増加している。また、自転車のコース整備などで自転車への興味も高まっているように思われる。スポーツ教室へオリンピックや著名人を依頼することで、さらに活性化するのではないかと。他の競技団体にも同様に企画をお願いすることで、スポーツ教室、イベントが盛り上がり、活性化していくのではないかと。 目的や対象、レベルの違いや行政と民間の連携・棲み分けを意識したスポーツ教室・イベントの整理及び効果的な実施方法の検討。 	<p>には受け入れられやすい。スポーツ情報コーナー(名称に工夫)を定位置で確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見る、行う、支える等、スポーツに触れる機会は様々だと思います。スポーツ好きの人だけでなく多くの方に、地域としてスポーツに取り組んでいることを発信できる仕組みづくりがあるといいなと思います。TV、新聞、チラシ、web、ソーシャルなど 学校へ情報を発信することが、児童生徒、保護者へ周知することの方法の一つと考える。(しかし、学校では配布物が多いのが現状である。) 市民のみなさんの関心と何を見るか、聞くかだと思いますが、FMいわき、回覧板(単独のチラシ) ※良いかはわかりませんが、防災無線を利用すると聞いている人は多いと思います。 SNS・紙媒体 etc.. もっとやるべき。情報が全然回っていない。 <p>■ 仕掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> 長年にわたり公民館主催の講師をさせて頂くことが多いのですが、年に“前期・後期”と市民教室が開催されていて運動系はいつも定員オーバーとなります。まず、企画された情報をキャッチしてもらわないと行動が起きないと思います。 「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」ではTwitterを開設したが、興味ある人じゃないと反応しない。そもそもスポーツに関心がない人を新たに増やすか、実際に行っている人にさらに深い情報を発信するかなど、ターゲットを決める必要がある。 いわきスポーツコミッションを中心に、FMいわきの番組や、観光まちづくりビューローと連携して情報発信体制の強化を図る。 とくに市民が「参加（する・見る）」する機会・イベントの発信に注力する。 	

※いただいたご意見は、原文のまま記載しています。

ヒューマン	指導者・スポーツボランティアの育成について	ボランティア団体の組織化について	その他
	<p>■スポーツボランティアの育成方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリーでそれを仕事としているスポーツ指導者は、自己指導力を含めて常に自己研鑽のための努力をしている者が沢山います。<u>ボランティアさんは、基本的に無償活動です。そのボランティアさんのレベルをどこに設定するか？ボランティアさんのモチベーションをキープするためのサポートは（定期的）必要だと思います。</u> <p>■スポーツボランティアの育成方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツボランティアは、<u>小学生くらいから育てていかないと意識が薄い</u>と思います。 <p>■必要な指導者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者に対する指導者の現状は？ ・障がい者を指導する指導者の育成 <p>■指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の中に、<u>まだ体罰や暴言を行っている人が多い</u>ようである。学校では禁止しているので、少しずつ減少しているが、スポ少等では、未だに多いと聞く。そのような指導者は、<u>どこの誰が指導監督するのか</u>明確ではない。 <p>■指導者の育成方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人うつくしまスポーツルーターズを活用する。 ・因みにサッカーでは指導資格ライセンス制度が構築されており、レベル別に必要な知識を学び、指導者としてのランク付けと共に資格が無いと大会に参加できないようになっています。有償指導者、ボランティア指導者にかかわらず。 ・指導者育成を、クラブとサッカー協会提携で行っています。 ・目的はサッカーを教えるということではなく「<u>そもそも育成とは</u>」という視点から、子どもたちを育成する指導者を養成しようと始めました。<u>地域で子どもを育てるために、どのような視点を持てばいいか</u>共通見解が持てるので、<u>スポーツだけでなく教員の方々とも連携して行っていきたい</u>と考えています。 ・<u>指導者の意識改革やスポーツを楽しむ質を高めるため、人材育成を図るためにも、研修の機会が与えられると良い</u>と思う。 ・指導者については、各スポーツ、昔とは違う考えとなっており、<u>現在の指導者が変わる意識がない種目は変わらない</u>と思います。 ・<u>健康増進などが目的の場合、動画コンテンツなどである程度対応できる。直接指導が必要な分野について、具体的な情報収集・整理が必要。</u> ・<u>指導者の人たちに安心してまかせられる運動プログラムを検討</u>すべき。 <p>■指導者育成体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各スポーツ協会で実施しているプログラムのほか、<u>各協会が連携し全体的に開催できる育成プログラムを検討</u>してはどうか。 ・(株)いわきスポーツクラブがいわきサッカー協会と連携して行ってきたサッカーの指導者育成事業が、<u>ラグビーやテニスなど他スポーツ指導者も参加できる内容での展開</u>となってきている。場所の確保や講師への待遇の支援があればさらに充実していくと思う。 	<p>■団体の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体協関係、スポーツ推進委員、種目別競技団体の一本化 ・「福島ルーターズ」のような組織があるとイベント等の時に大変助かると思います。現在、スポーツ推進委員がそれに値する活動をされているのかと思いますが、愛称等を付けていわきのボランティア団体として位置づけはつきりさせた方が良いと思います。 ・<u>団体の組織化は難しい</u>と思う。目的・活動内容・これまでの実績・役員の考えなどの理由による。無理に組織化するのではなく、<u>連携・協力体制が取れるような働きかけ</u>などからはじめて、<u>組織化ができるような状況になれば（数団体でも）検討</u>してもいいのではないかと。 <p>■組織化の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織化するのは大変なことと思いますが、<u>小学校、高学年から高校生、大人の参加協力してもらって継続して集めていくことが大切</u>だと思います。 <p>■仕掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合運営を行うにあたり、<u>大切な団体</u>だと思います。 ・スポーツを支えるという側面ですが、<u>ただ協力するのではなく「誇りに感じるチームを支える」というモチベーション</u>になっていただくことが大切かと思えます。ただ、クラブからの発信では一方通行になりますので、<u>地域と連携しながら取り組んでいきたい</u>と思います。 ・現在の指導者は無償が多いところだが、<u>少しでも長続きできるように有償にする仕組みづくりが必要</u>と考える。 ・ボランティア団体はいらないと思う。<u>料金を発生させ明確にしたほうがお互い良い</u>と思う。 	<p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション協会、福祉レクリエーションなどの団体を活用する。 ・いわき市スポーツボランティアに登録して、大会に協力した場合、何か特典があると、<u>沢山の人がスポーツに積極的になる</u>と思う。 ・場所があるのに、<u>その場所を活かせる内容の運動プログラム</u>を考えるべき。平の人間は、<u>わざわざ勿来に運動しに行かない</u>と同じで、<u>各地で開催し利用者が気軽に</u>行ける仕組みを作るのが先だとと思う。

※いただいたご意見は、原文のまま記載しています。

いわき FC	いわき F C との連携について	その他
	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわき F C が市民対象にした様々な活動をしているが、その立案等の段階で市側からも参加しているのか？または事前の相談？などはあるのか？ ・どの様に連携して良いのか？ F C 側でもっとどのようにしていいのか？戸惑うところがあるのではないのでしょうか？ <p>■連携の時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いち社会団体とするならば他の団体と区別する必要は無いと思います。 ・経済界においては起爆剤的な要素もあることから連携を推進したいのではないかと思います。 ・一般市民からすると、税金を費やすことには反感を持たれる可能性があることから、J3、J2、J1 に上がり、市民の雰囲気盛り上げてきた段階で連携のアクションを起こした方が良いのでは。 ・素晴らしい組織・場所・環境があるなら今すぐにでも連携をした方がいい。今すぐ、大事な年代に動ける環境を作ってあげた方がいい。 <p>■連携の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわきにチーム拠点があるのにいまいち盛り上がっていない。チーム（といわきスポーツクラブ）と地域との間に壁があるようだ。チーム（といわきスポーツクラブ）はもっと情報発信と地域に出向く活動やパークに人を呼ぶ仕掛け（イベント以外）が必要である。地域では、イベント時やサッカー教室以外にもっと選手と触れ合う機会を考えるべきである。そのためにも、地域内での関連団体などの連携・協力体制の確立が必要である。 ・広告塔としても連携していくべきと考えます。 ・最新のスポーツ科学を取り入れるという意味でも必要だと思います。 ・コロナ禍において、カテゴリーが上がる条件等が緩和されているが、通常だとホームの試合で 2,000 人以上集めることが条件となっている。J リーグに上がる上からないではメディアの取り上げ方や全国から対戦相手のサポーターが来るなど、色々な面で変わってくる。様々な業種への影響や経済効果を考えると推進計画にもいわき FC のことを多く記載するなど連携が必要と感じる。 ・行政主導の連携・支援体制から、より裾野を広げて「地域密着型」のスポーツクラブとして展開していくための具体的な体制・戦略が必要。 ・いわき FC がホームタウンを拡大したことを契機に、行政レベル・民間レベルでの連携を推進するための体制づくりを行う。 ・「スポーツを通じて、いわき市を東北一の都市にする」をスローガンに活動されており、J 3 昇格も見えてきている。市が「見る」「応援する」側として、民間団体などと連携して支援することは今後も継続してほしい。 ・今後、J リーグ参入が決まれば、スタジアム等が必要になり、スポーツツーリズムにつながってくると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いわき市民に対して様々な活動が定着しつつあり、お互い好ましい方向に向かえればと思う。 ・一番良いのはいわき FC が自前でスタジアムを作り（市は固定資産税を免除する形で支援）、そのスタジアムを中心としていわき市が体育館、グラウンド、野球場、テニスコート、子ども広場（噴水あり）、グランドゴルフ、温泉施設（宿泊施設）等を増設し、<u>一大スポーツ公園として整備していくことができればと思う。</u>定期バスを運行し施設までのアクセスを確保し、気軽にバスで行ける施設にする。<u>施設の充実により交流人口の促進にも役立つ。</u> ・本来は、F C 側の企業・クラブの力を使いたいと思っていましたが、各方面に対し連絡・調整ができていないため、ある意味、結果が出ていないと思います。今ではありませんが、このままだと、S C 社内的に「いわき市の協力が・・・」と言い出しかねないので、これも難しいですが、<u>いわき市側でコントロールし使っていく（導く）のはいかがかな</u>と思います。 ・J 2 や J 1 昇格に備えた競技場の整備に関しては、いわき F C が民間団体であることを念頭に市には公共団体としての節度ある対応を期待する。 ・グリーンフィールドにナイター設備が必要なのではないか。

スポーツツーリズム	いわき七浜海道や新舞子ヴィレッジなど地域資源の活用について	その他
	<p>■活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興道路？を使って自転車やローラースケート等のレースなどはできないか。 ・いわき市は自然豊かです。「いわき七浜海道を歩こう！」等、<u>ウォーキングを市民大会レベルにしては？</u>（コース別とか）アンケート結果もウォーキングがトップです。サンシャインマラソン大会も大分定着しました。（最近では自然災害で中止が多いですが） ・施設を利用して幼少期のあそびの教室や運動指導を行う。 ・サイクリングしましたが、とてもよかったです！海を見ながら山もあり、首都圏にはない素敵な環境だと感じました。もし自分が観光で地方に行った際、ライトにできるものがあればぜひチャレンジしたいと感じました。<u>観光客向けにも、気軽にできるサイクリングプランがあると、ますます発展していくのではないかと思います。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・新舞子ヴィレッジには申し訳ないですが、キャンプ場の併設等もファミリー向けには良いのではないかと。家族でツーリングに来ながらアクアマリン福島、いわきららミュウ、石炭化石館等、<u>市内の施設のツーリングにも参加してもらい、特典を準備したらどうだろうか。</u> ・サイクリングやロードレース？等ですが、競輪自転車販売・メーカー関係の方と連携・P R していくべきかと思えます。高校・大学の大会を誘致できれば関係者も多く参加が見込めるのではないかと思います。 ・継続的にいわきで合宿を行うチームやその母体と連携し、スポーツおよびそれ以外の分野での交流を活性化する。 ・本市には、上記のほか競輪場、いわきグリーンベース、いわきグリーンフィールドの競技施設などを多数有しており、<u>これらと民間の宿泊施設や観光施設などを組合せれば魅力のある合宿プラン等も企画できるのではないかと。</u> ・レンタル可能な自転車が増えることを望む。

※いただいたご意見は、原文のまま記載しています。

スポーツツーリズム	いわき七浜海道や新舞子ヴィレッジなど地域資源の活用について	その他
	<p>・サイクリングマップを昨年度作成し、ロードバイクを始める人も多くなってきたことからか求める人が多くなってきた。しかし、走ってすぐ帰るなど観光面ではあまり影響がないため、<u>今後はパッケージツアーや泊りをしてもらうように活用していく。</u></p> <p>・「いわき七浜街道」は県が管理する防潮堤の管理用通路を有効活用して、市が自転車や人（散策）が通行できる延長約 53 km の市道として令和 2 年度完成を目指し整備していると伺っております。完成すれば、沿線には商業施設、観光施設及び新舞子ヴィレッジをはじめ様々な施設が立地していることから、<u>スポーツツーリズムの有望な資源になると思います。「健康」を売りにした資源としても、沿線の民間施設と連携した活用などが期待されます。</u></p> <p>■ 周知方法</p> <p>・「いわき七浜」というネーミングにインパクトが薄いように感じるがどうでしょうか？ <u>海なし県の地域をターゲットに広報し誘致するのはどうか。</u></p> <p>・市内もしくは域内での地域資源と思われる場所やそこで行われるイベントや行事などと繋げる仕掛けを考える。よく言われる「点」ではなく「面」として考える。<u>難しいことではあるが、まずは、海道と新舞子ともう 1 つか 2 つの資源の連携から考え、そこから広げていく方法は良いのではないか。いきなり広域的な考えや取組みは無理だと思う（⇒必ず散らかります）。</u></p> <p>・ロケーションの観点から、サイクリング、ウォーキングなど、イベントを行うべきと思います。</p> <p>・<u>スポーツツーリズムの具体的なモデルコースや観光商品を作るなど、そのプロモーションを含めた戦略が必要。</u></p> <p>・<u>スポーツツーリズムの受け皿・拠点となる宿泊施設の掘り起こし、ネットワーク化が必要。</u></p> <p>・<u>思ってるほど、全然知られていないですよ。SNS・紙媒体など使ってもっと情報を拡散するべき。すぐ良い施設なので。もったいない。</u></p> <p>■ 施設整備</p> <p>・競技レベルのイベントが出来るのかはわからないが、併設してレクリエーション部門を設け、より多くの人々が参加できるようにする。</p> <p>・<u>レンタルできる自転車を増やしてほしい。</u></p> <p>・新舞子については、人工芝を拡張、スタンドを作ることなどが必要と思われる。バリアフリーになっていない海に近い場所なので、津波等自然災害にも対応できていない。<u>観光対応としては、土台である会場の充実を図ることが重要で、具体的にはサッカーの大会、ソフトボール、少年野球など他地域からの多くの関係者を集めることができるイベントは多いと思われるので、観戦者、また参加者に対応できるようにすると良いと思う。</u></p> <p>・<u>いわき七浜海道の整備が進んでいる。場所によっては、道幅が狭いところも見受けられる（例：小名浜オーシャンホテル近辺）</u></p>	

スポーツコミッション	市内環境の実態を踏まえた誘致ターゲット種目について	トップスポーツ誘致による交流人口の拡大と地域経済活性化の手法(アイデア)について	近隣市町村との連携（共生）について	その他
	<p>■ 現状</p> <p>・夏は暑すぎず、冬は雪が降らず、年中通して天候がいいこと。さらに温泉もあるという、<u>素敵な地域だと感じています。</u></p> <p>・<u>残念ながら誘致を積極的に呼び掛けできるような施設が現在は無いように思われます。</u></p> <p>■ 誘致方法</p> <p>・<u>ハード整備面等いわきの特性を活かした種目を誘致し、波及効果を促す戦略を立てる。具体的には、野球（ファンが多い、野球場が比較的多い）、サッカー（いわき FC、J ヴィ</u></p>	<p>■ 誘致方法</p> <p>・<u>冬場、雪が降らないという地域性を「売り」とすれば東北エリアをターゲットに大会を誘致することは可能かもしれない。</u></p> <p>・<u>トップスポーツ誘致とは何か？ ターゲットと同様、理由付けは必要である。</u></p> <p>・<u>有名な選手が出場するメジャースポーツの開催誘致か、誰でも日本代表になれるマイナースポーツのメカにするか。</u></p> <p>・<u>トップスポーツアスリート/チームの強化合宿を誘致し、</u></p>	<p>■ 仕組み</p> <p>・<u>宿泊など地域と連携することが大切なポイントになると思いますので、実績を積み上げながらパッケージを作り上げていければと思います。</u></p> <p>・<u>双葉地域と比べて、いわき市は全体としてスポーツ関連施設等が充実している一方、J ヴィレッジや楢葉運動公園、天神岬スポーツ公園などの資源も点在している。スポーツ関連施設の相互利用からいわき・南双葉都市圏の交流促進と有効活用を図るべき。</u></p> <p>・<u>いわき FC がホームタウンを拡大したことを契機に、行政</u></p>	<p>・<u>冬の合宿誘致：雪国からの団体を誘致する。（練習会場、宿泊所、送迎バスなど）</u></p> <p>※<u>いわき市内のチームとの練習試合⇒いわきの強化にもつながる。</u></p> <p>・<u>「宿泊、交通、駐車場等、色々問題はありますが、スポーツ誘致に対し、宿泊の補助を出して来てもらう等のこともやってみるのはどうかと思います。</u></p> <p>・<u>景観・環境の地域資源について、十分自慢できるレベルをどう使っていくかと思います。</u></p> <p>・<u>近隣との連携で、スポーツ庁事業にエントリーする。</u></p>

スポーツ コミッション	市内環境の実態を踏まえた誘致ターゲット種目について	トップスポーツ誘致による交流人口の拡大と地域経済活性化の手法(アイデア)について	近隣市町村との連携(共生)について	その他
	<p>レジャなど)、自転車(競輪場、サイクルロードの整備)など。</p> <p>■ターゲット選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは多くの競技人口がいる種目からスタートし、実績を積んでいき様々なスポーツに拡大していくといいかと思ひます。 ・ターゲット種目は言えない。サッカーはいわきFCと新舞子フットボール場を合わせれば可能かもしれない。 ・いわきFCを考へてサッカー ・競技人口の多い少ない、学校で力を入れている競技、強いチーム(クラブチーム、スポ小など)がある、クリナップレスリングなど国内外で活躍、実績のある選手がいる競技、などなど、ターゲットを絞るには、よほどの明確な理由付けが必要だと思ひます。無理にターゲットを設定する必要はないと思ひます。例えば、将来、いわきブランドとして確立させたいスポーツまたは種目をターゲットにする(⇒でも理由付けは難しいと思ひます) ・マラソン、駅伝、サイクリング、ロードレース、トライアスロン、野球、サッカー ・競技人口の多い種目、施設から考へると、野球、サッカー、陸上競技など。また、海を生かしてマリンスポーツ等 ・いわきには素晴らしい海がある。全国見ても有名なサーフポイントを持っている。「サーフィン」をメジャー化することによって、小さい子供のうちから環境問題(ビーチクリーン)などに触れさせ身近に海を感じさせることができる。 	<p>滞在型観光と結びつける。</p> <p>■交流人口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートを目の前で見るといふことは、地域の方々にとても刺激になると思ひます。昨年サモアにお越しいただいた際、体の大きさだけで圧巻でしたが、さらにプレーを見るとますます憧れが強くなると思ひます。 ・交流人口としては近隣の地域からの来場が見込めること、地域経済活性化として見たさに多くの人が集まること、また来ていただくチームにもファンが多くいるとその来場も見込め、より地域の活性につながっていくと思ひます。 ・交流人口拡大策や活性化の手法は、いかに広く周知を図ることが重要である。 ・いわき市を知ってもらい、良さを感じてもらい、聖地化していくことで交流人口の拡大を図る。 <p>■施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した施設の完備 <p>■既存資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツで、いわき市の人や経済が活気づくのは、とても素敵だと思ひます。また、いわき市の自然環境(海、山、気温等)や立地条件(首都圏からの近さ)からも、可能なアイデアだとも思ひます。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘致はもちろんですが、もっと生で公式試合観戦できる機会を提供させてあげたい。 	<p>レベル・民間レベルでの連携を推進するための体制づくりを行う。</p> <p>■既存資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜通り全体とても気候が良いので、スポーツで地域が輝くよう、人を呼び込むことができるのではないかと感じています。 ・特に、広野町とはJビレッジがあるので考へていくべきかと思ひます。 ・いわきFCのホームグラウンドとしてJヴィレッジを使用するにあたり、双葉8町村とも連携して応援する動きになってきている。双葉地域でもスポーツイベントを開催しているため、この取り組みを軸に、参加し合うような取り組みに発展させていきたい。 ・Jヴィレッジとサッカーイベント、大会等で近隣市町村と連携する。いわきFCの大会がJヴィレッジということもあり、今後、Jリーグ参入を考へれば必要と思ひます。Jヴィレッジは福島県としての施設ですので、市と県との連携となる。 <p>■重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要だと思ひます。 ・非常に重要な事項だと思ひます。何について連携するか、その方法はなど、十分な検討が必要です。 	
その他	自由意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・早くコロナが終息し、自由に楽しくスポーツができる日を待ちたいと思ひます。 ・現況はコロナ禍で密になれないので、イベントの集客が大変です。 ・県内の各市町村におけるスポーツ施設の設置状況を人口比により割り出すといわき市は一体施設が足りているのか不足なのか、どうなのか？ ・スポーツ振興課からだけの発信ではなく、高齢者においては包括支援センター、小学生においては教育委員会等、コラボすることで施設の活用とマンパワーを組み合わせ活動が発展させることが可能なのではないかと思ひます。縦割りではなく、横の繋がりを持つことでより一つの事業が大きな効果をもたらすことができるのではないかと思ひます。 ・基本理念(?)は、「スポーツを通じた人と地域(まち)の育成」だと思ひます。多面的視点から「スポーツ」を分析し、この地域に必要なエキスの抽出や活用策を検討しながら、子供のころから「この理念」が理解できるような施策を実施していくべきだと思ひます。 ・時代は変化しています。もっともっと若い子たちの生の意見を直接取り入れた方がいいと思ひます。すごいアイデアを持っていると思ひます。 ・施策達成度を測る指標として「人数や団体数」などを指標とする場合において、単に数値のみを記入するのではなく、併せて、市人口に対する比率(%)も表示してはどうか。(今後人口減少が進み、次の例えのように同じ1万人でも人口が多い場合と少ない場合では意味合いが異なるのではないかと) <p>例えば、人口30万人に対する1万人(3.3%)の利用と、人口25万人に対する1万人(4%)の利用では、市民一人当たりの利用回数が異なってくるため。</p>			

その他				
	自由意見			
	<p>・②第2回委員会で、「資料2-1」新計画（案）の「第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題」において、アンケート調査から、1の人口動態・・・から4のスポーツ大会・・・で、現状等の把握を行い、5の現状から見た課題とされているのは、あまりにも強引である。5で「同規模自治体との対比」を行い、いわき市（アンケート結果）がどのような位置（特性）にあるかを把握してから「現状からみた課題」となるのではないか。その後、10年後はどうあるべきかを当該委員会として議論した結果を、第3章 計画の基本方針と目標としてはいかがか。</p>			

※いただいたご意見は、原文のまま記載しています。